



日本地球化学会ニュース

No. 198 August 2009

Contents

2009年度日本地球化学会年会のお知らせ(3).....	2
市民講演会及び東広島天文台見学のお知らせ.....	4
学会からのお知らせ.....	4
2009年ゴールドシュミット国際会議（6/21～26）報告	
院生による研究室紹介 No. 13	5
九州大学大学院理学府化学専攻 無機反応化学研究室	
書評.....	8

2009年度日本地球化学会年会プログラム

2009年度日本地球化学会年会のお知らせ(3)

主催：日本地球化学会

共催：日本化学会，日本鉱物科学会，日本質量分析学会，日本地質学会

助成：財団法人中国電力技術研究財団，財団法人広島大学後援会

会期：平成21年9月15日(火)～17日(木)

会場：広島大学理学部

東広島市鏡山1-3-1

交通：JR 山陽本線西条駅前からバス「広島大学」行に乗り，「広大中央口」下車（所要時間約15分）。新幹線・東広島駅から広島大学へのバスは，一日数本しかなく，不便です。広島市中心部（原爆ドーム付近のバスセンター）からも，広島大学直通の高速バスがあります（所要時間約55分）。

アクセスについては，下記のサイトを参照下さい。バスの時刻表も掲載されています。

<http://www.hiroshima-u.ac.jp/top/access/index.html>

内容：口頭発表及びポスター発表，総会，学会賞記念講演，夜間小集会，懇親会

口頭発表は，A～Eの5会場で行います。総会，学会賞記念講演はQ会場，夜間小集会はB会場，ポスター発表はP会場，懇親会は生協北2食堂で行います。

若手優秀ポスター賞：きわめて優れたポスター発表を行った日本地球化学会学生会員に授与します（受賞者発表は懇親会の際に行います）。

プログラム：本ニュースの末尾に掲載するプログラムをご覧ください。講演要旨は8月末に，J-STAGE上（<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/geochem-proc-char/ja/>）で公開されます。なお，要旨集の配布を事前送付では行わず，学会当日に行います。

年会当日の受付：理学部E棟1階ロビーで，初日の8時45分から開始します（入口はB1階です）。

口頭発表について：口頭発表時間は，招待講演を除き，討論を含めて15分です。講演を12分以内で終了し，3分の討論時間を残すようにしてください。10分で第1鈴，12分で第2鈴，講演終了で第3鈴が鳴ります。なお，招待講演は討論時間も含めて20分を原則としていますが，詳しくはプログラムをご覧ください。発表には各会場で液晶プロジェクター1台

のみ使用できます。Microsoft社のPowerPoint 2007をインストールしたノートパソコン（OSはWindowsXP）を用意します。発表者は上記システムで実行可能な発表用ファイルをUSBメモリまたはCD-Rに記録して持参し，発表されるセッション前の休憩時間に各会場のノートパソコンに入れて動作を確認してください。朝一番のセッションで発表される方は早めにおいでになるか前日のうちに（9月14日は19時まで年会本部はオープンしています），発表用ファイルをノートパソコンに入れて下さい。上記以外のシステム（Mac，Keynoteなど）は極力避けていただきたいのですが，使用を希望される方はご自身で使うパソコンやシステムを持参の上，発表の2講演前までに，A会場では最前列の席で，B～E会場では液晶プロジェクターの脇で待機してください。

ポスター発表について：ポスターボードのサイズは縦160 cm×横80 cm（注1）で，各パネルボードには発表番号を示してあります。掲示するポスターの左上角には，ポスター番号を目立つように明記して下さい。掲示に使用するセロテープなどは実行委員会で用意しますので，会場で受け取ってください（画鋏は使用不可）。ポスター発表は初日（9月15日）と2日目（16日）と張り替えて行います。ポスター番号が1 Pxxは初日発表，2 Pxxは2日目発表で，初日は12時までに，2日目は10時30分までに掲示してください。初日には13時00分から14時00分まで，2日目には11時30分から12時30分まで，それぞれ1時間のコアタイムが設けられています。発表者はコアタイムには必ずポスターの前に立って説明を行ってください。なお，両日ともポスターは18時までに必ず撤去してください。それ以後も掲示しているポスターは，実行委員会が処分しますのでご注意ください。

（注1）：フレームを含めたサイズは縦160 cm×横86 cmのためA0版サイズ（縦118.9 cm×横84.1 cm）も掲示可能です。

参加予約申込：年会 web page（<http://www.wdc-jp.biz/geochem/2009/>）から，指示に従って申し込んでください。予約申込は8月28日(金) 14時締切。これ以後は，当日受付をご利用ください。

参加登録費：（講演要旨集1部含む）

予約：一般会員5,000円，学生会員3,000円，
会員外7,000円，会員外学生4,000円

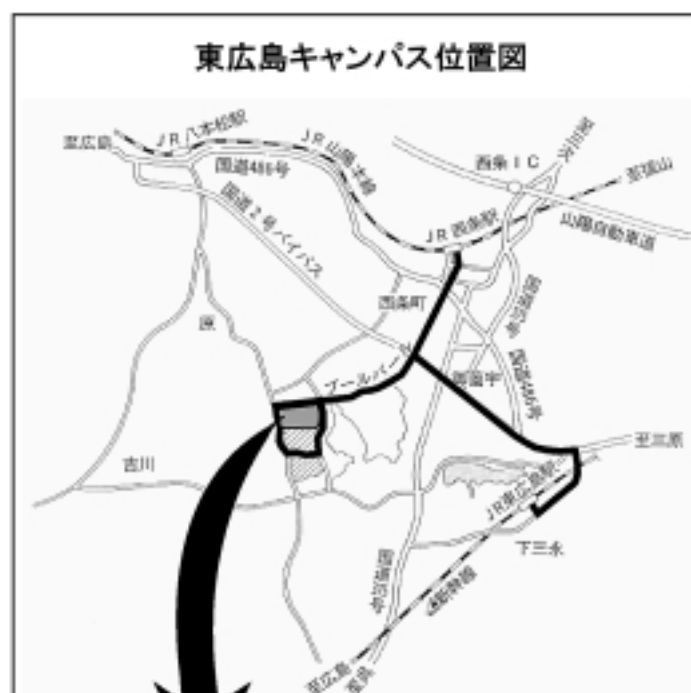
広島大学 東広島キャンパスマップ

広島大学理学部・理学研究科への経路

所在 東広島市鏡山一丁目3番1号

- ◆ JR西条駅からバス「広島大学」行きで「広大中央口」下車（約12分）
- ◆ 山陽新幹線東広島駅からタクシー（約15分）

広大中央口バス停は道路の片側にしかありません(キャンパス側の車線のみ)。西条駅方面へご利用の場合も、バス下車時と同じバス停からご乗車下さい。



当日：一般会員6,000円、学生会員4,000円、
会員外8,000円、会員外学生5,000円

＊なお、会員は日本地球化学会及び共催学会の会員を指します。当日受付で入会申込された方も会員扱いとします。

懇親会：9月16日 18時より生協北2食堂にて
予約5,000円（学生3,000円）、当日6,000円（学生4,000円）。

追加の講演要旨集：3,000円／部（当日手渡し）（後日郵送の場合は3,500円／部）。

併設展示：関連機器メーカーその他による展示会をポスター会場（P会場）にて開催します。多数の方のご来場をお待ちしております。

その他：実行委員会では宿泊／航空券等の斡旋はいたしません。各自お早めに手配ください。

年会事務局

〒739-8526 東広島市鏡山1-3-1

広島大学大学院理学研究科地球惑星システム学専攻内

E-mail: GSJ2009@hiroshima-u.ac.jp

●市民講演会及び東広島天文台見学のお知らせ

日本地球化学会では、年に先立ち、市民講演会及び見学会を開催致します。会員の皆様もぜひ参加下さい。

行事名：市民講演会「宇宙・太陽系の進化と現在の姿」
（主催：日本地球化学会、共催：広島大学大学院理学研究科、協賛：広島県教育委員会、東広島市教育委員会）

日時：2009年9月13日(日) 13:00～17:00
（12:30開場）

場所：広島大学東広島キャンパス学士会館（講演会）
および東広島天文台

対象：広島地域の中高生、一般市民（100名）

＊参加無料ですが天文台見学が可能な人数に上限があるため、事前申込みをお願い致します。人数に余裕があれば当日参加も可能ですので、お気軽にお問合せ下さい。

プログラム：

第一部：市民講演会（13:00～14:30）

1. 宇宙の誕生と太陽系の進化
海老原充（首都大学東京・理工）
2. 月試料の局所分析で紐解く「月」の歴史

寺田健太郎（広島大学・理）

3. 宇宙からの使者「光」

大杉節（広島大学・宇宙科学センター）

第二部：東広島天文台見学（15:00～17:00）

（東広島天文台は、広島大学が所有する研究施設です。見学会は昼間ですが、それでも晴れていれば星は見えるそうです。）

本講演会及び見学会の概要：

この市民講演会は、中高生や一般市民向けに最新の宇宙科学の成果を紹介すると共に、東広島天文台の見学も行うという企画です。特に今回は、著名な宇宙科学者の講演や天文台の見学を体験し、市民の方々に科学の面白さを分かってもらうばかりでなく、身近な広島大学から世界最先端の研究が発信されていることを知って欲しい、という願いをこめてこの会を企画しました。また、講演や見学を通じて、多くの優秀な若者が「自分も研究をやりたい」と感じ、科学の道を志してくれることを強く期待致しております。

連絡先・問合せ：

〒739-8526 広島県東広島市鏡山1-3-1

広島大学大学院理学研究科地球惑星システム学専攻
高橋嘉夫

Tel：082-424-7460

Fax：082-424-0735

E-mail: ytakaha@hiroshima-u.ac.jp

学会からのお知らせ

●2009年ゴールドシュミット国際会議報告

2009年の第19回ゴールドシュミット国際会議は、6月21日から26日までの5日間、スイスのダボスで開催されました。ダボスは、政治家などが世界の諸問題を議論する「世界経済フォーラム」、通称「ダボス会議」が開催されることで有名な山麓のリゾートタウンです。今回のゴールドシュミット会議は、このダボス会議と同じ会場で行われました。日本は初夏と言っても良いくらいの気候でしたが、ダボスでは山に雪が残り、ミズレや氷雨が降る冬のような気候の中での開催でした。

今年のゴールドシュミット会議の参加者は2,700人を越え、これまでで最大規模の開催となりました。その為、口頭発表2会場にポスター会場を加えた3会場

で、研究発表が行われました。全て会場は、徒歩5～10分程度の距離なので、移動が大変というわけではありませんが、複数のセッションを行き来するのに不便という感はありませんでした。2002年のゴールドシュミット会議も同じ会場で開催されたのですが、ポスターを含めた全ての発表が、今回のメイン会場1つで行われたことを考えると、規模の拡大が想像できるかと思います。学会の大規模化には賛否両論ですが、広報活動の観点からすると参加者の増加は歓迎すべきことだと思いました。

今年のゴールドシュミット会議の特長は、学生・院生を含めた若手研究者の発表が多かったことが挙げられると思います。ヨーロッパ開催の時は、同じ様な傾向があるので、安い交通費が欧州の若手研究者の参加を促したのだと思います。ゴールドシュミット会議は、原則として欧州と北米の交互開催なので、渡航費用の捻出に日本の若手研究者は苦勞されると思いますが、学会には鳥居基金という渡航援助制度があります。海外の学会参加を検討されている方は、是非応募を検討してみてください。

さて、ゴールドシュミット会議における主な広報活動は2つです。一つは日本地球化学会の宣言文をプログラム冊子に掲載すること。もう一つは、メイン会場にブースを設け、Geochemical Journal (GJ) のCDと冊子体、学会のパンフレットを配布することでした。GJに対する関心は予想以上に高く、100枚用意したCDは開催2日目で、冊子体は開催4日目で配布を終了いたしました。また、GJ賞の受賞式の直後には、ブースにおいてあった受賞論文別刷が全て無くなりました。GJに関する関心の高さは、「GJに投稿す

るにはどうしたらよいか」、「私の専門は岩石学だが、その分野はGJの範囲内か」といった質問がブースに寄せられたことから伺えました。しかし、これらの質問は、GJに関する情報の欠如とサーキュレーション不足によるものとも考えられます。従って、GJに対する宣伝活動は、今後の広報活動の課題と言えると思います。これに関連しますが、論文を受理された著者に入会案内を送る等で学会の入会勧誘を行えば、海外会員の獲得の機会が増え、GJだけでなく学会が活性化されるのではないかと感じました。最後に、地球化学会のブースは学会員の皆さんの活動拠点、情報交換の場、待ち合わせ場所として活用して頂けます。来年度以降も是非気軽にお立ち寄り下さい。

(広報委員・下田玄)



院生による研究室紹介 No. 13

九州大学大学院理学府化学専攻
無機反応化学研究室
江藤真由美, 赤松美里

今回の研究室紹介は九州大学理学府化学専攻無機反応化学研究室をM2の江藤真由美と赤松美里が紹介させていただきます。無機反応化学研究室には現在、横山拓史教授、宇都宮聡准教授、岡上吉広講師の3名のスタッフ、特別研究員1名、博士課程4名、修士課程9名、学部生5名の計22名が在籍しています。大学院生には、内部進学者だけでなく他大学出身者や留学生もいるオープンな研究室です。今年の3月にキャンパス移転のために現在の場所に移り、新しい研究室での生活をスタートさせました。写真1は2008年度の卒業式の日、移ってきたばかりのキャンパスにて撮影した集合写真になります。修士課程の先輩が卒業してしまつて寂しい思いをしていたら、今年度は学部4年生が5人も入ってきて一気に大所帯になりました。この22名の学生と教授が同じ部屋にいます(写真2)。

私達の研究室ではケイ酸と有機物の相互作用についての研究、アルミニウムの環境化学、ナノジオサイエンス、岩石中の希土類元素の地球化学、金属カルコゲン化合物への金の吸着、Fe-Mn クラストへのレアメタルの濃縮、かご型ケイ酸8量体の化学など幅広い方面



ブースの様子。今年の年会開催地である広島大学の関係者に占拠されています。

について研究を行っています。特にケイ素とアルミニウムについては、学術研究者の白さん、D2の齊藤さんが、今年スイスでのゴールドシュミット国際会議にてポスター発表を行いました（写真3、4）。また、ナノジオサイエンスではM1の上石さんがオーラルで発表しました。ゴールドシュミット国際会議では毎年誰かが発表することを研究室の目標としています。

ケイ素はクラーク数2番目の元素で、おもにケイ酸塩やシリカとして存在します。熱水中での微生物表面へのシリカの沈澱についての研究のため、微生物表面がカルボシキル基で覆われていることから仮想モデルとして陽イオン交換樹脂を用いてシリカを吸着させたところ、金属イオンの存在が微生物へのモノケイ酸の

吸着に重要であることがわかりました。

アルミニウムはクラーク数3番目の元素で、酸性土壌では Al^{3+} が溶け生物に対して有毒であることが報告されています。近年、酸性雨などにより、天然水や土壌へのアルミニウムの溶出による影響が問題となっています。特に多核ヒドロキソアルミニウム錯体は6水和物イオンや単核ヒドロキソ錯体より強い毒性を持っており、その中の一つ、 ϵ -Keggin型アルミニウム13量体が土壌中に存在することが報告されています。そこで微生物表面や土壌粒子表面の仮想モデルとしてケイ素の場合と同様に陽イオン交換樹脂を用いて研究を行ったところ、アルミニウム13量体が樹脂に強く吸着し、いったん吸着した13量体は、広いpH範囲



写真1．2008年度卒業式集合写真
(宇都宮先生と上石さんはこの時、学会に参加中でした)



写真2．2009年度研究室写真



写真3．スイスにて

で安定に存在することを確認しました。また、現在、ケイ酸植物であるイネへのアルミニウムの取り込み機構やアルミニウム耐性機構について研究するために、研究室内でイネの水耕栽培を行っています（写真5）。皆に気かけられながら順調に成長しているようなので秋にはアルミニウム入りのおいしいお米が実ることでしょう。

宇都宮先生を中心とするナノジオサイエンスの分野では、大きなプロジェクトが動きはじめています。地下水帯中のコロイドによる有害元素の拡散、大気中の超微粒子に存在する重金属、地球表層物質中のナノ結晶の存在形態、安定性、挙動についてなど、地球表層に存在する膨大なナノ鉱物が地球に与える影響を、透過型電子顕微鏡を使用して、実験と天然試料分析の観察という2つのアプローチから明らかにしています。

岩石中の希土類元素の地球化学では、希土類元素

（REE）が互いによく似た性質をもつと同時に元素個別の特徴をもつ元素群であることから、鉱物生成の環境を示す情報が得られると注目されています。当研究室では、縞状鉄鉱床および菱刈金鉱床に着目して、まず地球化学試料中のREE分析法を開発して、これらの鉱床のREEパターンからそれぞれの鉱床がどのように生成したか、を推測することを目的に研究を進めています。

金の化学では、菱刈金鉱床などの浅熱水性金鉱床において、金が硫化鉱物近傍に分布することから、金（Ⅲ）錯イオンを用いて、金属硫化物への金の吸着挙動・還元挙動について研究を行っております。

Fe-Mn クラストの化学では、海底に存在する鉄とマンガンで構成された堆積物、Fe-Mn クラスト中に様々なレアメタルが濃縮されていることから、その濃縮機構を検証するために、これまで、白金、パラジウ

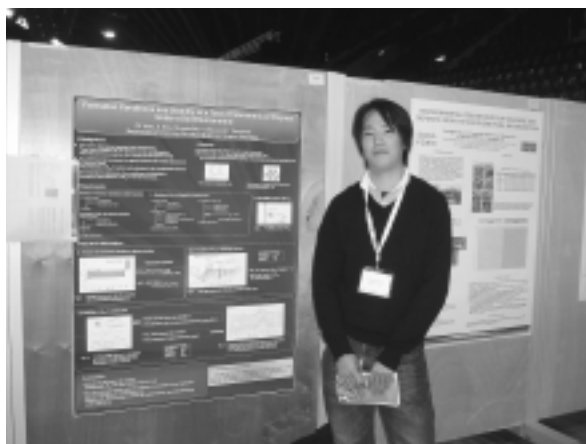


写真4．ゴールドシュミット2009でのポスターの前に立つ齊藤先輩



写真6．菱刈金山での温泉水サンプリング



写真5．稲の水耕栽培の様子

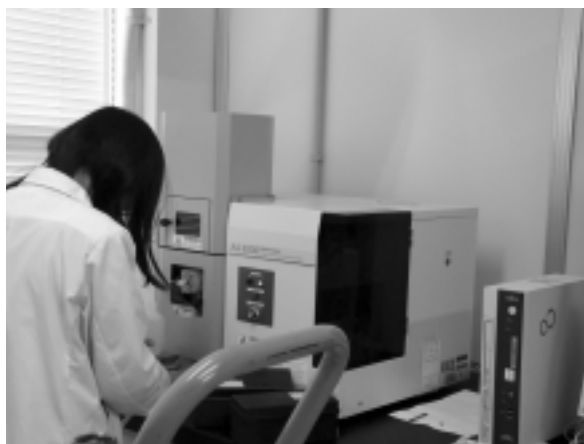


写真7．原子吸光スペクトル測定中

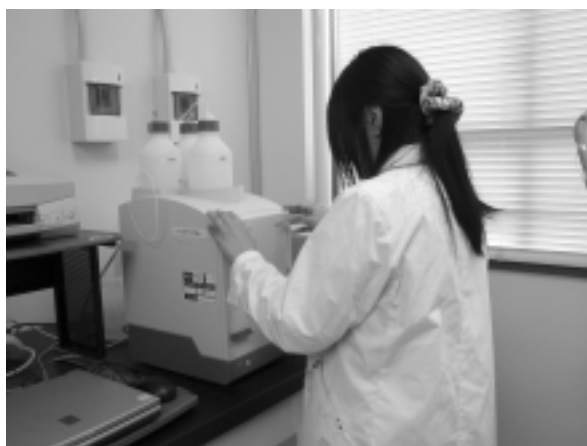


写真 8. イオンクロマトグラフによる分析

ム、金について研究を行ってきました。現在はクラス
ト中で最も濃縮率の高いテルルについて研究を行っ
ています。

ケイ酸 8 量体の化学では、かご型ケイ酸 8 量体の結
晶の一つである Q_8M_8 に γ 線を照射すると、かご内に
水素が包摂されて安定に存在することから、この水素
原子の基礎的性質や応用について、ESR を用いて研
究を行っています。

最後に研究室生活についてお話しすると、週一回、
研究室全体のゼミがあり、学生が持ち回りで文献紹介
と中間報告を担当しています。ゼミでの発表では新し
い発見が多くあり、夜遅くまで議論が止まりません。
実際の研究では現地にサンプリングにいたりもしま
す(写真 6)。分析には研究室内では原子吸光分光計
やイオンクロマトグラフを(写真 7, 8) おもに使用
しています。また Spring-8 などの外部の測定施設も
よく利用して研究しています。Al や Si の系では、振
とう器による長時間の実験をし、NMR により化学種
の同定を行っています。

また学科内のイベントとして、研究室対抗のソフト
ボール大会があるのですが、今までは人数も少なく、
他研究室との合同チームだったのに対し、今年はどう
とう研究室単独でチームを作れるくらいに人数が増え
ました。また現在のメンバーにはソフトボールや野球
の経験者も多いため、いいところまでいけるのではな
いかと期待しています。

以上、簡単ではございますが当研究室の紹介をさせ
ていただきました。このように研究も学生生活も楽し
んでいる研究室です。近くに御寄りの際は、理学府な
のになぜか旧工学部 3 号館 4 階にある当研究室にぜひ
お越しください。また大学院を受験される方を大歓迎

いたします。興味をもたれた方は当研究室の HP
(URL:<http://mole.rc.kyushu-u.ac.jp/ircf/>) もご覧く
ださい。



書 評

「黄砂」

編者：岩坂泰信・西川雅高・山田丸・洪天祥

出版社：古今書院 A4 版 342 ページ

2009 年 7 月発行，9,500 円＋税

ISBN 978-4-7722-3125-1

本書は、1991 年に我が国の黄砂研究の教科書として
最初に出版された『大気水圏の科学 黄砂』(名古屋
大学水圏科学研究所編)に引き続く書として、同じ
A4 版の大きさで出版された。約 20 年の間に、黄砂に
ついて幾つかの国内外のプロジェクトが走り、黄砂の
観測的研究の成果が蓄積することにより、様々な新し
い側面が明らかになった。本書は、そのような成果を
ふんだんに盛り込んでいる。黄砂を学びたい学生、研
究者にとっては、現在最も重要な書物であり、しばら
くはそうあり続けるだろう。

第一章では、古文書にみる黄砂が扱われている。
“雨土”という表現は面白い。第二章では、発生源。
第三章では、発生・輸送・予報。黄砂の舞い上がりの
過程が詳しく説明されている。第四章は、観測法。物
理的な観測だけでなく、化学的な観測法についても
しっかりと紙面を割いているが、同位体を用いた手法
は扱われていない。第五章は東アジアにおける事例。
中国、モンゴル、韓国の研究者により執筆され、和訳
された章である。第六章はタクラマカン砂漠。我が国
のプロジェクト研究の結果がまとめられている。第七
章は生物地球化学的循環。ここでは、主に飛来中の変
質、実体の変化について記述されている。

黄砂現象の質・量的、時空間的理解はかなり進み、
20 年前と現在とでは、黄砂現象が中国と東アジア固有
の一時的現象という理解から、次第に全球に広がりを持
った常時的現象という理解に変わりつつあると感じて
いる。そのような理解の変遷は、しっかりとデータ
により本書から探ることができた。

一地球化学者として、黄砂研究の面白さは、黄砂の

発生から飛来中の化学的変質過程とその後の運命にあると思っている。黄砂の変質については、20年前とは比較にならない位議論が進んだ。しかし、黄砂を通じて中国の急成長が見えているのに過ぎないかもしれない。一方、運命についてはまだまだ議論が少ない。諸外国ではレスの運命と影響について特に活発に議論さ

れているのに対し、やや淋しいと感じた。第七章には、黄砂の生物地球化学的循環とあったので、期待して読んだが、黄砂についての物質的な記述に終始し、期待が裏切られた。この章のタイトルは、将来、発展すべき方向を提示したものと考えたい。

(九州大学理学研究院・赤木右)

ニュースへ記事やご意見をお寄せください

地球化学に関連した研究集会，書評，研究機関の紹介などの原稿をお待ちしております。編集の都合上，電子メールでの原稿を歓迎いたしますので，ご協力の程よろしくお願いいたします。次号の発行は2009年10月頃を予定しています。ニュース原稿は9月下旬までにお送りいただくよう，お願いいたします。また，ホームページに関するご意見もお寄せください。

編集担当者（日本地球化学会ニュース・HP 幹事）

石橋純一郎

〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1

九州大学理学部

地球惑星科学教室

Tel：092-642-2664／Fax：092-642-2684

E-mail：news-hp@geochem.jp

鈴木勝彦

〒237-0061 横須賀市夏島町2-15

海洋研究開発機構（JAMSTEC）

地球内部ダイナミクス領域（IFREE）

Tel：046-867-9617／Fax：046-867-9315

E-mail：news-hp@geochem.jp

2009 年度日本地球化学会第 56 回年会
プログラム

会期：9 月 15 日（火）～17 日（木）

会場：広島大学理学部
（東広島キャンパス）

セッションテーマ

(1:9月15日、2:9月16日、3:9月17日、ABCDEP:会場名)

セッションテーマ	日程・会場・ポスター番号
01 堆積物／堆積岩の地球・環境化学	3 D 午前、2 P14-19
02 土壌・陸域生態系の物質循環	3 A 午前、2 P28-32
03 マントル物質の化学とダイナミクス	3 C 午前、2 P01
04 海洋における微量元素・同位体の分布と循環	3 E 午前、2 P33-36
05 現世の有機物、微生物、生態系の地球化学的動態と過去の生命史の解明	1 A 午後、1 P17-20
06 水圏環境地球化学	1 E 午前・午後、1 P33-41 2 E 午前
07 安定同位体研究の最先端：地球化学への実験的・計算科学的アプローチ	1 C 午後、1 P08-09
08 社会地球化学：人と安全	1 C 午後、1 P10-11
09 地球化学と生理学の融合：生命圏のフィジオロジーの探究	2 A 午前、2 P21-24
10 海洋地殻中の移流と生物地球化学作用	1 A 午前、1 P12-16
11 放射性廃棄物と地球化学	1 C 午前、1 P27-32
12 古気候・古環境解析の地球化学	1 B 午前・午後、1 P21-26
13 宇宙地球有機物とアストロバイオロジー	3 B 午後、2 P20
14 バイオミネラリゼーションと石灰化ー遺伝子から地球環境までー	2 D 午前
15 宇宙化学：先太陽系史から初期太陽系円盤進化史	1 D 午前、1 P01
16 大気微量成分の地球化学	2 C 午前、2 P42
17 惑星・衛星・小惑星の宇宙化学	1 D 午前・午後、1 P02-05
18 大気圏・水圏とそれらの相互作用、気候変化	3 D 午後、2 P37-41
19 ナノジオケミストリー・地球の物質の基礎化学	3 D 午前
20 宇宙線生成核種の宇宙地球化学	2 B 午前、1 P06-07、 3 B 午前
21 東アジアのテクトニクスと地球化学	3 C 午後
22 沈み込み帯の地球化学	3 C 午前、2 P02-06
23 地球化学から教育界へのキャリアパスの模索	1 B 午後
102 固体地球化学（全般）	3 A 午後、2 P07-13
104 大気水圏地球化学（全般）	3 E 午後、2 P25-27

2009 年度 日本地球化学会年会 スケジュール

月日	会場・部屋	時間	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
9/15 (火)	A E002			10 海洋地殻・生物						05 有機物微生物				
	B E104			12 古気候古環境 (1)					12 古気候古環境 (2)		08 社会 地球化学	キャリア パス		夜間集会
	C E210			11 放射性廃棄物					07 安定同位体					
	D E211			15 太陽系史		17 惑星 (1)				17 惑星 (2)				
	E E209			06 水圏環境 (1)					06 水圏環境 (2)					
	P E203						ポスター1							
9/16 (水)	A E002			09 地化・生理学										
	B E104			20 宇宙線生成核種 (1)										
	C E210			16 大気微量成分										
	D E211			14 バイオミネラル										
	E E209			06 水圏環境 (3)										
	P E203					ポスター2								
9/17 (木)	Q E102							総会		受賞講演				
	生協北2食堂												懇親会	
	A E002			02 土壌・陸域生態系				102 固体地球 (全般)						
	B E104			20 宇宙線生成核種 (2)				13 アストロバイオジー						
	C E210			22 流み込み	03 マントル物質			21 東アジア・テクトニクス						
	D E211			01 堆積物堆積岩	19 ナノジオ			18 気候変化						
	E E209			04 海洋微量元素・同位体				104 大気水圏 (全般)						
	時間		9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20

(セッション名の前の数字はセッション番号)

9月15日(第1日) 午前

A会場 (E002)

セッション 10: 海洋地殻中の移流と生物地球化学作用
コンピーナー: 石橋純一郎(九大)・鈴木勝彦(JAMSTEC)・
浦辺徹郎(東大)

09:45-10:00 1A01 (10-01)

熱水実験を用いた海洋地殻中の移流「海底下の大河」と
生物地球化学作用の検証 (海洋研究開発機構) ○鈴木
勝彦

10:00-10:15 1A02 (10-02)

海底熱水性重晶石の ESR 年代測定の実現に向けて
(¹岡山理科大学・²九州大学・³東京大学) ○奥村輔¹・佐
藤文寛¹・内田乃¹・豊田新¹・石橋純一郎²・中井俊一³

10:15-10:30 1A03 (10-03)

XAFS 解析に基づくモリブデンおよびタングステンの海水-
鉄マンガン酸化物間の分配機構の解明 (広島大学)
○柏原輝彦・高橋嘉夫

10:30-10:45 1A04 (10-04)

南西インド洋海嶺 34°E から 40°E の3つのセグメントから得
られた玄武岩の地球化学 (¹専修大学・²海洋研究開発
機構・³東京大学) ○佐藤暢¹・中村謙太郎²・町田嗣樹²・
淡路俊作³・加藤泰浩³・熊谷英恵²

<休憩>

10:55-11:10 1A05 (10-05)

Li 同位体を用いたガスハイドレートに付随する流体の生
成深度推定 (¹(独)海洋研究開発機構・²東京大学) ○西
尾嘉朗¹・町山栄章¹・稲垣史生¹・戸丸仁²・松本良²

11:10-11:25 1A06 (10-06)

沖縄トラフ熱水におけるメタンの起源 (海洋研究開発機
構) ○川口慎介・高井研

11:25-11:40 1A07 (10-07)

熱水の相分離が海底熱水生態系に及ぼす影響 (海洋研
究開発機構) ○中村謙太郎・高井研

11:40-12:00 1A08 (10-08 招待)

海洋地殻内流体中の *Zetaproteobacteria* とその重要性
(¹東京薬科大学・²東京大学・³海洋研究開発機構・⁴九州
大学・⁵東北大学・⁶筑波大学・⁷岡山大学・⁸琉球大学・⁹高
知大学・¹⁰静岡大学・¹¹産業技術総合研究所) ○加藤真
悟¹・柳川勝紀²・砂村倫成²・高野淑識³・石橋純一郎⁴・掛
川武⁵・内海真生⁶・山中寿朗⁷・土岐知弘⁸・野口拓郎⁹・木
村浩之¹⁰・丸茂克美¹¹・浦辺徹郎²・山岸明彦¹・TN167,
YK05-09 乗船研究員一同

B会場 (E104)

セッション 12: 古気候・古環境解析の地球化学
コンピーナー: 中塚武(名大)・入野智久(北大)・原田尚美
(JAMSTEC)・渡邊剛(北大)

09:30-09:50 1B01 (12-01 招待)

ひと粒でわかる? 石英の供給源推定へ CLESER 分析より
(¹海洋研究開発機構・²岡山理科大学・³大阪大学・⁴気象
研究所・⁵東京大学) ○長島佳菜¹・西戸裕嗣²・豊田新²・
山本裕哉²・谷篤史³・五十嵐康人⁴・多田隆治⁵

09:50-10:10 1B02 (12-02 招待)

有孔虫の安定同位体比と微量元素からみた最終氷期以
降のオホーツク海南部の中層水環境 (海洋研究開発機
構) ○木元克典

10:10-10:25 1B03 (12-03)

石英中の不純物中心の ESR 信号を用いた風送塵起源
地の分別 (¹岡山理科大学・²東京大学・³Chinese Academy
of Sciences・⁴海洋研究開発機構・⁵大阪大学・⁶気象研
究所) ○山本裕哉¹・豊田新¹・磯崎裕子²・Youbin Sun³・多
田隆治²・長島佳菜⁴・谷篤史⁵・五十嵐康人⁶

10:25-10:40 1B04 (12-04)

浮遊性有孔虫中層種に記録された水塊情報の抽出へ古
水塊の鉛直構造復元に向けた個体別安定同位体定量的
活用へ (¹産業技術総合研究所・²東京大学・³東北大学・
⁴北海道大学) ○石村豊穂¹・野崎莉代^{2,3}・千代延俊³・角
皆潤⁴・尾田太良³・鈴木紀毅³

10:40-10:55 1B05 (12-05)

硫酸水素素に付随する石膏の硫酸同位体比組成: 古水
温指標としての可能性 (筑波大学) ○丸岡照幸

10:55-11:10 1B06 (12-06)

温帯に生息するハマサンゴとキクメイシの骨格成長パター
ンに関する地球化学的考察 (¹北海道大学・²海洋研究開
発機構・³KORDI・⁴福岡大学・⁵国立環境研) ○河村卓¹・
渡邊剛¹・堀康輝²・坂本竜彦²・入野智久¹・島村道代¹・
Kiseong Hyeong³・杉原薫⁴・山野博哉⁵

11:10-11:25 1B07 (12-07)

サンゴ骨格炭酸塩の ¹³C-¹⁸O 結合度と生育水温との関係
(¹名古屋大学・²福岡大学・³東京工業大学) ○阿部理¹・
杉原薫²・森本真紀¹・山田桂大³・吉田尚弘³

11:25-11:40 1B08 (12-08)

メコンデルタ沖のサンゴ骨格に見られる Ba/Ca 比の季節
変動とその要因 (¹無所属・²ベトナム科学技術院・³名古
屋大学・⁴国立環境研究所) ○三ツ口文裕¹・Dang X.
Phong²・北川浩之³・柴田康行⁴

11:40-11:55 1B09 (12-09)

硬骨海綿骨格中の鉛同位体比を用いた海洋鉛放出源の
時系列変動 (¹北海道大学・²海洋研究開発機構・(株)マリ
ン・ワーク・ジャパン・³東京大学) ○大森一人¹・渡邊剛¹・
谷水雅治²・松岡淳³・井上麻夕里⁴・白井厚太郎⁴

11:55-12:10 1B10 (12-10)

北限サンゴ礁から採取されたキクメイシ属サンゴ骨格中
の酸素・炭素同位体比 - 中緯度域における高時間分解
能古気候アーカイブとしての検討 - (¹北海道大学・²韓国海
洋研究院・³福岡大学・⁴国立環境研究所) ○島村道代¹・
K. Hyeong²・渡邊剛¹・I. Seo²・C. M. Yoo²・入野智久¹・杉原
薫³・山野博哉⁴

9月15日(第1日) 午前

C会場 (E210)

セッション 11: 放射性廃棄物と地球化学

コンピーナー: 日高洋(広島大)・吉田英一(名大)・大貫敏彦(JAEA)

09:15-09:30 1C01 (11-01)

局所同位体分析を用いたオクロ天然原子炉のナチュラルアナログ研究(広島大学) ○日高洋

09:30-09:45 1C02 (11-02)

Zr, Mo, Ru, Pb, U 同位体組成からみた天然原子炉内の金属微粒子の形成過程について(広島大学) ○菊池麻希子・日高洋

09:45-10:00 1C03 (11-03)

クエン酸, NTA および EDTA 存在下における U(VI) の微生物還元挙動(日本原子力研究開発機構) ○鈴木義規・田中万也・香西直文・大貫敏彦

10:00-10:15 1C04 (11-04)

原位置における地下水の地球化学環境を保持したろ過手法に関する技術開発(日本原子力研究開発機構・²コベルコ科研) ○青才大介¹・吉田治生²・水野崇¹

10:15-10:30 1C05 (11-05)

地下流体の原位置酸化還元状態の推定(清水建設) ○穂刈利之

10:30-10:45 1C06 (11-06)

SEC-UV-Vis-ICP-MS法を用いた幌延地下水の特性評価(日本原子力研究開発機構) 香西直文・大貫敏彦・岩月輝希

10:45-11:00 1C07 (11-07)

北海道幌延地域における地球化学環境の長期変動と微量元素分布(日本原子力研究開発機構・²東京都市大学) ○岩月輝希¹・石井英一¹・本多照幸²

<休憩>

11:05-11:25 1C08 (11-08 招待)

低酸素条件下での鉱物の溶解速度と Fe の酸化速度(東京大学) ○村上隆

11:25-11:40 1C09 (11-09)

高レベル放射性廃棄物の地層処分を想定した方解石表面における希土類元素の分配係数の定量(慶應義塾大学大学院理工学研究科) ○曾我匠・鹿園直建

11:40-11:55 1C10 (11-10)

花崗岩中の断層・割れ目破砕形態と充填鉱物の関係およびその長期安定性評価への応用(名古屋科学館・²名古屋大学博物館・³名古屋大学大学院・⁴日本原子力研究開発機構) ○西本昌司¹・吉田英一²・浅原良浩³・天野健治⁴・鶴田忠彦⁴

11:55-12:10 1C11 (11-11)

低レベル放射性廃棄物処分システムの開発と地球化学の貢献(三菱マテリアル) ○河田陽介・山田憲和・高瀬敏郎・高沢真由美・赤木洋介

D会場 (E211)

セッション 15: 宇宙化学: 先太陽系史から初期太陽系円盤進化史

コンピーナー: 橋省吾(東大)・伊藤正一(北大)・横山哲也(東工大)・山下勝行(岡山大)

09:45-10:00 1D01 (15-01)

極低温表面反応 CO+OH による CO₂ 分子生成(北海道大学・²カタール大学) ○大場康弘¹・渡部直樹¹・日高宏¹・香内晃¹・Valerio Pirronello²

10:00-10:15 1D02 (15-02)

CAI 酸素同位体から見た初期太陽系星雲(東京大学) ○小嶋稔・山田明恵

10:15-10:30 1D03 (15-03)

地球流出 O⁺ の同位体分別の量子化学計算: Earth wind 仮説の検証(東京大学・²上智大学・³情報通信研究機構) ○山田明恵¹・南部伸孝²・笠井康子³・小嶋稔¹

10:30-10:45 1D04 (15-04)

Allende 隕石中の Golfball Type B CAI の酸素同位体組成と Al-Mg アイソクロン(北海道大学・²シカゴ大学) ○伊藤正一¹・Steven Simon²・Lawrence Grossman²・坂本尚義¹

10:45-11:05 1D05 (15-05 招待)

High precision Mg isotopic measurement of CAI minerals with low Al/Mg ratio utilizing NanoSIMS 50L: Implications to thermal history of CAIs (Luna and Planetary Institute, ²NASA Johnson Space Center) ○Motoo Ito^{1,2}・Scott Messenger²

11:05-11:20 1D06 (15-06)

CB コンドライトの Mn-Cr 年代(岡山大学) ○山下勝行・山川茜・丸山誠史・牧嶋昭夫・中村栄三

11:20-11:35 1D07 (15-07)

始原的隕石の耐酸性残渣における Os 同位体異常(東京工業大学・²カーネギー研究所・³メリーランド大学) ○横山哲也^{1,2}・Conel Alexander²・Richard Walker³

セッション 17: 惑星・衛星・小惑星の宇宙化学

コンピーナー: 三浦弥生(東大)・橋省吾(東大)・中村智樹(九大)・山口亮(極地研)

11:35-11:50 1D08 (17-01)

南極とつぎ岬で回収されたサイズフラクション 100-238 ミクロンの宇宙塵の物質科学的特徴(九州大学大学院・²大阪大学理学研究科・³茨城大学理学部) ○山内祐司¹・中村智樹¹・土山明²・野口高明³

11:50-12:10 1D09 (17-02 招待)

惑星物質試料受け入れ(キュレーション)設備の機能と性能(宇宙航空研究開発機構) ○藤村彰夫・安部正真・矢田達・田中智・加藤孝・はやぶさ試料初期分析チーム

9月15日(第1日) 午前

E会場 (E209)

セッション 06: 水圏環境地球化学

コンピーナー: 高橋嘉夫(広島大)・福士圭介(金沢大)・松尾基之(東大)・光延聖(静岡県立大)

09:30-09:45 1E01 (06-01)

二酸化炭素圧入下での水-岩石反応実験によるミネラルウォーター生成条件の検討(慶應義塾大学) ○五味伸行・鹿園直建

09:45-10:00 1E02 (06-02)

アラゴナイトと水溶液間の希土類元素分配に関する実験的研究(神戸大学大学院) ○傅轟・寺門靖高

10:00-10:15 1E03 (06-03)

武庫川河川水中の重希土濃縮の成因について(神戸大学大学院) ○久保薫・寺門靖高

10:15-10:30 1E04 (06-04)

水-岩石反応から検討した大井川と天竜川の比較(慶應義塾大学) ○田中佑樹・鹿園直建

10:30-10:45 1E05 (06-05)

愛媛県西条市地下水水質と流動中の生物化学的プロセス(東海大学) ○丹下佑美子・成田尚史

10:45-11:00 1E06 (06-06)

神戸市東部〜西宮地域における地下水の水質について(神戸大学大学院) ○大橋克俊・寺門靖高

11:00-11:15 1E07 (06-07)

地下深部環境の BIO-NANO-GEO Science—瑞浪超深地層研究所における試み— (1 産業技術総合研究所・2 日本原子力研究開発機構・3 北海道大学) ○鈴木庸平¹・福田朱里¹・幸塚麻理子¹・石村豊穂¹・萩原大樹²・天野由紀²・角皆潤³・水野崇²

11:15-11:35 1E08 (06-08 招待)

真菌による生物的マンガン酸化物形成と元素回収への応用 (1 静岡県立大学・2 秋田県立大学) ○谷幸則¹・宮田直幸²

11:35-11:50 1E09 (06-09)

マンガン酸化真菌 KR21-2 株による特異的な Ce(III)酸化機構 (1 日本原子力研究開発機構・2 静岡県立大学) ○田中万也¹・谷幸則²・大貫敏彦¹

9月15日(第1日) 午後

A会場 (E002)

セッション 05: 現世の有機物、微生物、生態系の地球化学的動態と過去の生命史の解明
コンピーナー: 高野淑雄(JAMSTEC)・山中寿朗(岡山大学)・大庭雅寛(東北大学)

14:15-14:30 1A09 (05-01)

菱刈金山地下熱水微生物生態系における窒素循環解析 (海洋研究開発機構) ○西澤学・宮崎淳一・高井研

14:30-14:45 1A10 (05-02)

菱刈金山における微生物マットの生物地球化学的研究 (九州大学・東京工業大学・海洋研究開発機構) ○金子雅紀・石橋純一郎・平尾真吾・西澤学・宮崎淳一・奈良岡浩・高井研

14:45-15:00 1A11 (05-03)

水曜海山人工熱水噴出孔における古細菌ならびにバクテリア由来の脂質バイオマーカーの炭素同位体分析 (東北大学・産業技術総合研究所) ○大庭雅寛・佐藤誠悟・石田章純・掛川武・海保邦夫・古川善博・坂田将

15:00-15:15 1A12 (05-04)

海底堆積物中の古細菌が生きている直接の証拠: ^{13}C -tracer による海底現場培養 405 日 (海洋研究開発機構) ○高野淑雄・カ石嘉人・小川奈々子・野牧秀隆・大河内直彦

15:15-15:30 1A13 (05-05)

カスカディア縁辺域におけるガスハイドレートの分布と地下微生物活動の関係-IODP 航海 311 の結果より (産業技術総合研究所) ○吉岡秀佳・中村孝道・東陽介・丸山明彦・坂田将

15:30-16:05 1A14 (05-06 招待)

古細菌脂質の特徴と生合成 (産業医科大) ○古賀洋介

<休憩>

16:20-16:35 1A15 (05-07)

二枚貝殻中硬タンパクの CN 同位体比を用いた有明海における二枚貝餌資源の変遷史解明 (岡山大学・九州大学・復建調査設計株式会社) 井上聡・○山中寿朗・下山正一・市原孝彦

16:35-16:50 1A16 (05-08)

ヘムおよびヘム起源化石ポルフィリンの窒素・炭素同位体的な特徴 (海洋研究開発機構) ○柏山祐一郎・小川奈々子・大河内直彦

16:50-17:05 1A17 (05-09)

炭素数 33 以上の地層ポルフィリンの地球化学的意義の解明 (筑波大学・福岡工業大学) ○朝比奈健太・大塚直也・三田肇・野本信也

17:05-17:20 1A18 (05-10)

南中国のエディアカラ紀/カンブリア紀境界層から得られた長鎖 n -アルカンの起源 (東京工業大学) ○山田健太郎・上野雄一郎・山田桂大・吉田尚弘・丸山茂徳

17:20-17:40 1A19 (05-11 招待)

ペルム紀末大量絶滅時の硫化水素の大量放出に伴う大気酸素濃度の急減 (東北大学大学院・産業技術総合研究所) ○海保邦夫・古賀聖治・大庭雅寛・高橋聡・福田良彦

B会場 (E104)

セッション 12: 古気候・古環境解析の地球化学
コンピーナー: 中塚武(名大)・入野智久(北大)・原田尚美(JAMSTEC)・渡邊剛(北大)

14:15-14:30 1B11 (12-11)

石筍による古植生の復元 (九州大学・秋吉台科博・九環協・九電産業) ○中尾武史・園山幸希・富田麻井・栗崎弘輔・藤川将之・中村久・天日美薫・能登征美・吉村和久

14:30-14:45 1B12 (12-12)

秋吉台長登の石筍に記録された酸性雨による古植生変化 (九大院理・秋吉台科学博物館・森林総研・東北大院理・熊本大院自然科学) ○青木雅美・栗崎弘輔・園山幸希・富田麻井・藤川将之・池田善文・岡本透・山田努・真崎美穂・松田博貴・吉村和久

14:45-15:00 1B13 (12-13)

BC1~AD3世紀における埋没木曽ヒノキの年輪セルロースの酸素同位体比の経年変動: 考古学・歴史学との接点 (名古屋大学・北海道大学・国立歴史民俗博物館・奈良文化財研究所) ○中塚武・大西啓子・河村公隆・尾崎大真・光谷拓実

15:00-15:15 1B14 (12-14)

日本産樹木年輪試料の高精度炭素 14 測定による古環境考察の試み (国立歴史民俗博物館・(株)パレオ・ラボ・名古屋大学大学院・奈良文化財研究所) ○尾崎大真・坂本稔・今村幸雄・小林祐一・伊藤茂・丹生超子・中塚武・光谷拓実

15:15-15:30 1B15 (12-15)

南北両半球の泥炭層中ミズゴケの炭素同位体比の変動と気候因子の相関 (九州大・Göteborg University・Stirling University・Western Australia University) ○大木誠吾・Lars G. Franzén・Robert Mcculloch・Grzegorz Skrzypek・辛島伸一・奈良岡浩・赤木右

15:30-15:45 1B16 (12-16)

マゼラン海峡堆積物に記録された過去 12000 年にわたる $\delta^{15}\text{N}$ の変化 (海洋研究開発機構・University of Concepcion・University of Bergen) ○原田尚美・Carina B Lange・佐藤都・阿波根直一・Ulysses Ninnemann・Silvio Pantaja

15:45-16:00 1B17 (12-17)

過去 1.3 万年間におけるチベット泥炭コアの n -アルカンの水素同位体比の変動 (北海道大学・ミシガン大学・名古屋大学・北西大学・中国科学院) ○関寧・Philip A Meyers・河村公隆・中塚武・Yanhong Zheng・Weijian Zhou

16:00-16:15 1B18 (12-18)

湖沼堆積物中の有機炭素(TOC)・全窒素(TN)含有量に基づく古気候解析 (信州大・和歌山県立) ○公文富士夫・田原敬治

16:15-16:30 1B19 (12-19)

ペルー沖第四紀深海底コアのナンノ化石量と窒素・炭素同位体比に基づく水塊構造変動 (九州大学・環境科学技術研究所・東北大学・秋田大学) ○松崎哲也・塚本真伍・小島淳・北邊郎・長谷川英尚・千代延俊・佐藤時幸

9月15日(第1日) 午後

C会場 (E210)

つづき (B会場 セッション12)

16:30-16:45 1B20 (12-20)

南極ドームふじ氷床コアによる過去 72 万年間の水溶性エアロゾルの主要組成変動 (1 北海道大・2 山形大・3 国立極地研究所) ○飯塚芳徳¹・鈴木利孝²・平林幹啓³・三宅隆之³・本山秀明³・藤井理行³・本堂武夫¹

16:45-17:00 1B21 (12-21)

第四紀海洋堆積物の水銀含有量とナノ化石量に基づく海洋水塊構造変動 (1 九州大・2 環境科学技術研究所・3 東北大学・4 秋田大・5 国立科学博物館) ○小島淳¹・北逸郎¹・長谷川英尚²・千代延俊³・佐藤時幸⁴・林辰弥⁵

17:00-17:15 1B22 (12-22)

エディアカラ紀／カンブリア紀境界における海洋炭素循環変動 (1 東京工業大学・地球惑星科学専攻・2 東京工業大学・グローバルエッジ研究院・3 東京工業大学・環境理工学創造専攻) ○石川智子¹・上野雄一郎²・小宮剛¹・吉田尚弘³・丸山茂徳¹

セッション 23: 地球化学から教育界へのキャリアパスの模索

コンピーナー: 津野宏(横国大)・橋省吾(東大)

17:30-17:45 1B23 (23-01)

教員養成課程の現状・地球化学と教育の連携による可能性 (横国大) ○津野宏

17:45-18:00 1B23 (23-02)

「新しい」理科教員の試み ―現場の取材から見えてきたもの― (読売新聞社編集局科学部) ○杉森純

18:15-18:30 1B23 (23-03)

パネルディスカッション「地球化学分野から教育界へのキャリアパスはあり得るか？」(パネリスト: 杉森純・津野宏・橋省吾)

夜間小集会

18:30-20:00

セッション 07: 安定同位体研究の最先端: 地球化学への実験的・計算科学的アプローチ

コンピーナー: 武蔵正明(首都大)・大井隆夫(上智大)・垣内正久(学習院大)

14:15-14:30 1C12 (07-01)

結晶水和物-水蒸気間における水分子の同位体分別 (1 学習院大学理学部・2 東京工業大学・3 立教大学理学部) ○垣内正久¹・仲山英之¹・野村雅夫²・小高正敏³

14:30-14:45 1C13 (07-02)

イオン周りの水の H/D, ¹⁸O/¹⁶O 換算分配関数比の計算 (上智大学) ○大井隆夫・大坪晃子・梅村一樹

14:45-15:00 1C14 (07-03)

陰イオン交換反応におけるアンチモン同位体分別 (1 首都大学東京大学院・2 東京大学大学院) ○武蔵正明¹・小豆川勝見²・松尾基之²

15:00-15:20 1C15 (07-04 招待)

原子核の大きさと形がもたらす同位体分別―隕石中の同位体異常との相関について― (京都大学) ○藤井俊行

<休憩>

15:30-15:45 1C16 (07-05)

化学交換反応系における質量依存性と非質量依存性同位体分別 (1 東京工業大学・2 株式会社アトックス) ○野村雅夫¹・藤井靖彦²

15:45-16:00 1C17 (07-06)

質量非依存分別を引き起こす核の体積効果: 理論計算による解明 (1 首都大学東京・2 東京工業大学) ○阿部穂里¹・鈴木達也²・藤井靖彦²・波田雅彦¹

16:00-16:15 1C18 (07-07)

SO₂ の光分解に起因するイオウの異常同位体分別における酸素同位体置換の効果 (1 九州大学・2 Univ. Nevada-Reno) ○奈良岡浩¹・S. R. Poulson²

16:15-16:30 1C19 (07-08)

Isotopic effects on ²²²Rn/²²²SO₂ UV Spectra measured by Dual Beam UV Spectrometer (1 Tokyo Institute of Technology・2 University of Copenhagen) ○ S. Danielache¹・D. Jensen²・Y. Ueno¹・M. Johnson²・N. Yoshida

セッション 08: 社会地球化学: 人と安全

コンピーナー: 武蔵正明(首都大)・松尾基之(東大)・伊永隆史(首都大)

16:35-16:50 1C20 (08-01)

Sr 同位体トレーサーによる漆の産地決定の可能性(III) (1 東京大学・2 日本大学・3 明治大学) ○中井俊一¹・佐藤正教²・吉田邦夫¹・宮崎ゆみ子¹・宮腰哲雄³・神谷嘉美³・本多貴之³

16:50-17:05 1C21 (08-02)

放射性炭素¹⁴C を指標とするコンクリートの定量的劣化度評価の試み (名古屋大学) ○浅原良浩・南雅代・丸山一平・吉田英一・田中剛

17:05-17:20 1C22 (08-03)

炭素・窒素安定同位体比による富山湾オオグチボヤの栄養源に関する研究 (1 富山大・2 BAC・3 魚津水族館) ○松本恭平¹・張勁¹・川本詩織²・佐竹洋¹・稲村修³・竹内章¹

17:20-17:35 1C23 (08-04)

炭素・窒素・酸素安定同位体比を用いた牛肉の産地推定の試み (首都大学東京) ○後藤晶子・高見澤淳・武蔵正明・中下留美子・鈴木彌生子・伊永隆史

9月15日(第1日) 午後

D会場 (E211)

セッション 17: 惑星・衛星・小惑星の宇宙化学

コンピーナー: 三浦弥生(東大)・橋省吾(東大)・中村智樹(九大)・山口亮(極地研)

14:15-14:30 1D10 (17-03)

エンスタイトコンドライトの始原物質 (九州大学) ○岡崎隆司・中村智樹

14:30-14:45 1D11 (17-04)

Orgueil・Allende・Saratov 隕石中に存在する炭素質物質のラマン研究 (1 大阪大学・2 東京医科歯科大学・3 ウシントン大学) ○森下和彦¹・奈良雅之²・甘利幸子³・松田准一¹

14:45-15:00 1D12 (17-05)

レーザー抽出法を用いた普通コンドライト Moorabie 中希ガス捕獲成分の同位体組成 (1 東京大学・2 ウィスコンシン大学) ○松田伸太郎¹・中嶋大輔^{1,2}・長尾敬介¹

15:00-15:15 1D13 (17-06)

隕石に含まれる炭酸塩の Mn-Cr 年代測定と炭酸塩標準試料の作成 (1 東京大学・2 海洋研究所) ○藤谷渉¹・杉浦直治¹・市村康治¹・高畑直人²・佐野有司²

15:15-15:35 1D14 (17-07 招待)

局所 U-Pb 年代分析で紐解く太陽系の初期進化 (広島大学) ○寺田健太郎

<休憩>

15:40-15:55 1D15 (17-08)

パラサイト隕石中のハフニウム、タングステンの分配挙動 (1 京都大学・2 東京工業大学) ○横山隆臣¹・内山嘉子²・平田岳史¹

15:55-16:10 1D16 (17-09)

²⁶Al 含有量と化学組成に基づいた南極やまと HED 隕石のベアリング (1 立正大学・2 国立極地研究所・3 東京大学) ○楠野業瑠香¹・福岡孝昭¹・小島秀康²・松崎浩之³

16:10-16:25 1D17 (17-10)

Geochemical study of some howardites and polymict eucrites (1 Tokyo Metropolitan University・2 National Institute of Polar Research) ○Siong Wee¹・A. Yamaguchi²・M. Ebihara¹

16:25-16:40 1D18 (17-11)

月隕石 Dhofar 1428 の地球化学的および岩石学的研究 (1 首都大学東京・2 国立極地研究所) ○日高義浩¹・山口亮²・海老原充¹

16:40-16:55 1D19 (17-12)

次期月探査計画 SELENE-2 で目指すサイエンスと科学搭載機器の検討状況 (1 宇宙航空研究開発機構・2 北海道大学) 田中智¹・飯島祐一¹・大森久志¹・木村洋²・倉本圭²・三谷烈史¹・小川和律¹

16:55-17:10 1D20 (17-13)

火星複合探査 MELOS: 着陸機探査で明らかにする赤い火星 (1 東京大・2 九州大・3 産業技術総合研究所) ○橋省吾¹・宮本英昭¹・杉田耕司¹・三浦弥生¹・長尾敬介¹・三河内岳¹・岡崎隆司²・下司信夫³

17:10-17:25 1D21 (17-14)

次期火星探査における質量分析計を用いた地球化学・地質学・鉱物学的研究: 提案と期待される成果 (1 東京大学・2 九州大学・3 産業技術総合研究所) ○三浦弥生¹・橋省吾¹・長尾敬介¹・岡崎隆司²・三河内岳¹・下司信夫³

E会場 (E209)

セッション 06: 水圏環境地球化学

コンピーナー: 高橋嘉夫(広島大)・福士圭介(金沢大)・松尾基之(東大)・光延聖(静岡県立大)

14:15-14:30 1E10 (06-10)

干潟底質における酸化還元電位と元素の挙動に関する研究 (東京大学) ○原直樹・小豆川勝見・松尾基之

14:30-14:45 1E11 (06-11)

手賀沼底泥からのリン溶出に関する分析的・実験的研究 (慶應義塾大学) ○岩根健太・鹿園直建

14:45-15:00 1E12 (06-12)

地下水汚染の原因となるヒ素を含む緑泥石 (大阪市立大学) ○益田晴恵・篠田圭司・野口直樹・奥平敬元・Ashraf Ali Seddique

15:00-15:15 1E13 (06-13)

バングラデシュ南西部シャムタ村における地下水中ヒ素濃度の深度分布とみかけの分配係数との関係 (1 広島大学・2 愛媛大学) ○石橋拓也¹・板井啓明²・高橋嘉夫¹

15:15-15:30 1E14 (06-14)

ベンガル平野のヒ素汚染地下水の時空間変動要因について-1. 吸着平衡モデルに基づく汚染機構の新しい解析法- (1 愛媛大学・2 広島大学) ○板井啓明¹・石橋拓也²・高橋嘉夫²

15:30-15:45 1E15 (06-15)

モノハイドロカルサイトによるヒ素の取り込み (1 金沢大・2 広島大) ○福士圭介¹・酒井実¹・宗本隆志¹・横山由佳²・高橋嘉夫²

15:45-16:00 1E16 (06-16)

カルサイトへのヒ素の選択的取り込み (1 広島大・2 原子力機構先端研) ○横山由佳¹・田中万也²・高橋嘉夫¹

16:00-16:15 1E17 (06-17)

オマーンオフィオライトにおける高アルカリ泉の湧出と二次鉱物の生成 (1 独立行政法人物質・材料研究機構・2 北海道大学) ○森本和也¹・安楽総太郎²・佐藤努²・米田哲朗²

16:15-16:30 1E18 (06-18)

EXAFS 法を用いた水酸化鉄鉱物中のアンチモン(V)の局所構造の決定: 吸着種および共沈種の比較 (1 静岡県立大学・2 広島大学) ○光延聖¹・高橋嘉夫²・坂田昌弘¹

16:30-16:45 1E19 (06-19)

水圏におけるアンチモンの同位体分別の程度とその分別機構の理解 (1 海洋研究開発機構・2 広島大学・3 静岡県立大学) ○谷水雅治^{1,2}・浅岡聡²・荒木祐介²・光延聖³・高橋嘉夫²

16:45-17:00 1E20 (06-20)

表面錯体モデリングによる酸化物への IO_3^- 吸着の予測 (1 金沢大学大学院自然科学研究科・2 広島大学大学院理学研究科) ○永田貴洋¹・福士圭介¹・高橋嘉夫²

17:00-17:15 1E21 (06-21)

層状複水酸化物を用いたフッ化物イオンの除去及び再生活用法の検討 (慶應義塾大学大学院理工学研究科) ○吉岡章・鹿園直建

9月15日(第1日)ポスターセッション
P会場 (E203)、コアタイム:13:00~14:00
 (ポスターは12:00までに掲示、18:00までに撤去)

セッション 15: 宇宙化学: 先太陽系史から初期太陽系円盤進化史

1P01 (15-P01)
 NanoSIMSを用いた隕石の Al-Mg 年代測定 (東京大学)
 ○高田未緒・佐野有司・高畑直人・杉浦直治・藤谷渉

セッション 17: 惑星・衛星・小惑星の宇宙化学

1P02 (17-P01)
 ユークライト隕石のジルコンの化学組成からみた小惑星の初期地殻進化過程 (広島大学) ○小出詠子・日高洋

1P03 (17-P02)
 金属標準試料の合成とその均一性の評価 (1 東京工業大学・2 京都大学) ○今井東輔¹・横山隆臣²・横山哲也¹・竹山雅夫¹・高橋栄一¹・平田岳史²

1P04 (17-P03)
 Two extraterrestrial dust horizons found in Dome Fuji ice core, East Antarctica (1 国立極地研究所・2 ゲッティンゲン大学・3 海洋研究開発機構・4 茨城大学・5 九州大学・6 東京大学・7 カリフォルニア大学バークレー) ○三澤啓司¹・河野美香²・富山隆将³・野口高明⁴・中村智樹⁵・長尾敬介⁶・三河内岳⁶・西泉邦彦⁷

1P05 (17-P04)
 集積岩ユークライトの高温変成作用について (1 国立極地研究所・2 フロリダ州立大学・3 首都大学東京・4 UBO-IUEM) ○山口亮¹・白井直樹²・海老原充³・Jean-Alix Barrat⁴

セッション 20: 宇宙線生成核種の宇宙地球化学

1P06 (20-P01)
 日本各地の地下水中のヨウ素年代の測定と比較 (1 東京大学・2 学習院大学・3 京都大学) ○渡辺聡¹・松崎浩之¹・宮入陽介¹・村松康之²・馬原保典³

1P07 (20-P02)
 2000 年から現在に至る 9 年間の宇宙線生成核種 Be-7 の濃度変動について (山形大学) 菊地聡・櫻井敬久・○高橋唯・鈴木佳代・佐藤太一・都司修一・門叶冬樹

セッション 07: 安定同位体研究の最先端: 地球化学への実験的・計算科学的アプローチ

1P08 (07-P01)
 Enantiomer-specific isotope analysis (ESIA) of D- and L-amino acid: controlling factors of nitrogen isotopic hetero- and homogeneity (海洋研究開発機構) ○高野淑雄・カ石嘉人・大河内直彦

1P09 (07-P02)
 炭素・窒素安定同位体比分析によるヒト血清中アミノ酸と食料源の関係評価 (1 首都大学東京・2 京都大) ○廣野留都¹・武蔵正明¹・中下留美子¹・鈴木彌生子¹・伊永隆史¹・原田浩二²・小泉昭夫²

セッション 08: 社会地球化学: 人と安全

1P10 (08-P01)
 窒素安定同位体比による¹⁵N ラベル化を用いた植物の窒素吸収・同化過程の窒素動態解析 (首都大学東京)
 ○角田皓平・山本真由・武蔵正明・中下留美子・鈴木彌生子・伊永隆史

1P11 (08-P02)
 ICP 質量分析法を用いた環境試料中の超微量鉛同位体比測定法の開発 ~鉛放出起源の解明に向けて (1 株) マリン・ワーク・ジャパン・2 海洋研究開発機構高知コア研究所・3 東京大学海洋研究所) ○松岡淳¹・谷水雅治²・井上麻夕星³

セッション 10: 海洋地殻中の移流と生物地球化学作用

1P12 (10-P01)
 重晶石中の ESR 信号の熱安定性 (1 岡山理科大学・2 九州大学) ○佐藤文寛¹・奥村輔¹・豊田新¹・石橋純一郎²

1P13 (10-P02)
 バクテリア表面の希土類元素吸着サイトの pH 依存性 (広島大学) ○山本美香・高橋嘉夫

1P14 (10-P03)
 300°C、500 気圧におけるコマチアイトの熱水変質実験 (1 東京工業大・2 海洋研究開発機構) ○吉崎もと子¹・鈴木勝彦²・渋谷岳造²・清水健二²・中村謙太郎²・大森聡一¹・高井研²・丸山茂徳¹

1P15 (10-P04)
 始良カルデラ内に分布する塩化物泉の地球化学的研究 (九州大学大学院地球惑星科学専攻) ○平尾真吾・石橋純一郎

1P16 (10-P05)
 沖縄トラフ伊是名海穴の熱水活動の地球化学的特徴 (1 九州大学・2 高知大学・3 岡山大学・4 北海道大学・5 海洋研究開発機構・6 産業技術総合研究所) ○石橋純一郎¹・野口拓郎²・山中寿朗³・中川聡⁴・布浦拓郎⁵・中村光一⁶・稲垣史生⁵

セッション 05: 現世の有機物、微生物、生態系の地球化学的動態と過去の生命史の解明

1P17 (05-P01)
 メタンハイドレート賦存域におけるアーキア膜脂質の分布と同位体組成 (九州大学) ○金子雅紀・奈良岡浩

1P18 (05-P02)
 Mt. McRae Shale 中におけるバイオマーカー(炭素質物質)の検証 (九州大学) ○高柳直樹・北島富美雄・奈良岡浩・清川昌一

1P19 (05-P03)
 地層ベンゾポルフィリン中のベンゾピロール骨格の生成機構 (1 筑波大学・2 福岡工業大学・3 海洋研究開発機構) ○熊谷現¹・三田肇²・柏山祐一郎³・野本信也¹

9月15日(第1日)ポスターセッション
P会場 (E203)、コアタイム:13:00~14:00
 (ポスターは12:00までに掲示、18:00までに撤去)

1P20 (05-P04)

地層中に存在する 3-,8-又は 17-ノルボルフィリンの地球化学的意義の解明(2) — 3-,8-又は 17-ノルボルフィリンの生成機構の解明 — (1) 筑波大化学・2 福岡工業大工・3 JAMSTEC-IFREE) ○浅野純也¹・篠原一貴¹・野本光一¹・三田肇²・柏山祐一郎³・野本信也¹

セッション 12: 古気候・古環境解析の地球化学

1P21 (12-P01)

太平洋中層での浮遊性有孔虫殻の溶解と二次石灰化およびその同位体比への影響 (1 北海道大学・2 グローバルオーシャンディベロップメント) ○入野智久¹・太田晴美²・大場忠道¹

1P22 (12-P02)

名古屋クロマツの年輪中の炭素・酸素同位体比から探る環境変動 (1 名大院環境・2 名大院年代測定センター) ○林和樹¹・南雅代²・中村俊夫²・中塚武¹

1P23 (12-P03)

完新世の高時間分解能コアにおけるウラン・トリウム同位体:モンゴル・フスグル湖 (1 金沢大学・2 広島大学・3 名古屋大学) ○美濃健太¹・坂口綾²・中村俊夫³・柏谷健二¹・山本政儀¹

1P24 (12-P04)

中国江蘇省曙光のレス・古土壌層の元素・鉱物組成 (1 同志社大学・2 兵庫教育大学・3 南京博物院) ○瀧本信純¹・横尾頼子¹・成瀬敏郎²・林田明¹・松藤和人¹・房迎三³

1P25 (12-P05)

大気大循環モデルによる永期シミュレーションで得られた酸素同位体比-気温の関係 (1 海洋研究開発機構・2 東京大学) ○大垣内み¹・阿部彩子^{1,2}・栗田直幸¹

1P26 (12-P06)

太平洋赤道域堆積物コア中における Ba_{org} の分布 (東海大学) ○坂本緑¹・小西由紀¹・加藤義久¹・南秀樹¹

セッション 11: 放射性廃棄物と地球化学

1P27 (11-P01)

ニアフィールド/バリア機能に関する地球化学のプロセスとその課題 (名古屋大学) ○吉田英一¹・西本昌司¹・山本綱志¹

1P28 (11-P02)

重金属ストレスに対する酵母の応答:鉛とウランの比較 (1 日本原子力研究開発機構・2 静岡大学・3 酒類総合研究所) ○坂本文徳¹・大貫敏彦^{1,2}・藤井力³・家藤治幸³

1P29 (11-P03)

固-液両相のスペシエーションに基づくヨウ素の挙動解明 (広島大学) ○嶋本洋子¹・高橋嘉夫¹

1P30 (11-P04)

花崗岩中の地下水における微量金属元素のサイズ分布特性 (日本原子力研究開発機構) ○山本祐平¹・青才大介¹・水野崇¹

1P31 (11-P05)

瑞浪超深地層研究所における地球化学研究 — 第 1 段階における地球化学概念モデルの妥当性の確認方法について — (日本原子力研究開発機構) ○水野崇¹・齋正貴¹・萩原大樹¹・青才大介¹・山本祐平¹

1P32 (11-P06)

瑞浪層群明世層に見られる酸化バンドの地球化学 (名古屋大学) ○山本綱志¹・吉田英一¹・與話節生¹

セッション 06: 水圏環境地球化学

1P33 (06-P01)

放射線により生成するメタンハイドレート中の微量メタノール ~メタンハイドレートの生成年代決定を目指して~ (大阪大学) ○村山達郎¹・谷篤史¹

1P34 (06-P02)

無機および有機ヒ素の溶存形態と拡散係数の関係 (広島大学大学院理学研究科) ○坂光美香¹・高橋嘉夫¹

1P35 (06-P03)

二酸化マンガンへのテルルの吸着挙動:マンガンクラストへのテルルの取り込み機構 (1 九大院理・2 徳島大総合) ○勝山ゆか¹・沼子千弥²・岡上吉広¹・横山拓史¹

1P36 (06-P04)

群馬県南部地域に分布する非火山性温泉の水質形成機構 (1 東京理科大学・2 岡山大学) ○村松容一¹・近藤史也¹・千葉仁²・長島秀行¹

1P37 (06-P05)

シラス溶出陽イオンの挙動 (鹿児島大学) ○児玉将大¹・山本温彦¹

1P38 (06-P06)

アミノ酸重合反応における解離状態の効果 (大阪大学) ○坂田霞¹・北台紀夫¹・中嶋悟¹

1P39 (06-P07)

ベンガル平野のヒ素汚染地下水の時空間変動要因について — II. 堆積物-水間のヒ素のみかけの分配係数を支配する物理化学的要因 — (1 愛媛大学・2 広島大学) ○板井啓明¹・高橋嘉夫²

1P40 (06-P08)

藻類中の金属元素濃度を利用した大阪湾の海水汚染評価 (1 名古屋大学・2 神戸大学) ○神田ゆか¹・山本綱志¹・牛原康博²・川井浩史²

1P41 (06-P09)

科学掘削船「ちきゅう」船上でのキャピティリングダウン分光式マスをを用いた間隙水の酸素・水素同位体比分析とその有効性 (1 JAMSTEC・2 琉球大・3 東大海洋研・4 株式会社マリン・ワーク・ジャパン・5 産総研・6 ジャスコインタナショナル株式会社) ○井尻暁¹・土岐知弘²・山口保彦³・稲垣史生⁴・諸野祐樹⁵・井町寛之⁵・寺田武志⁶・芦寿一郎⁶・中村光一⁶・町山栄章¹・坂井三郎¹・大橋麻美⁶

9月16日(第2日) 午前

A会場 (E002)

セッション 09: 地球化学と生理学の融合: 生命圏のフィジオロジーの探究
コンピーナー: 沢田健(北大)・カ石嘉人(JAMSTEC)

09:30-09:35 趣旨説明

09:35-09:50 2A01 (09-01)

長鎖アルケノンの植物生理学的研究: 古水温・古塩分指標に関連して (1 北海道大学・2 筑波大学) ○沢田健¹・白岩善博²

09:50-10:05 2A02 (09-02)

高度好塩性アーキア *Halobacterium halobium* のイソプレノイド脂質生合成におけるロイシン-メバロン酸短絡経路 (九州大学) ○山内敬明

10:05-10:20 2A03 (09-03)

被子植物テルペノイドバイオマーカーの化学分類学・生理学的研究 (北海道大学) ○中村英人・沢田健

10:20-10:40 2A04 (09-04 招待)

テトラピロール化合物の炭素アイソトポマーと基礎生産者の炭酸同化プロセス (海洋研究開発機構) ○柏山祐一郎・カ石嘉人・小川奈々子・大河内直彦

10:40-10:55 2A05 (09-05)

ビルバラクラトン・マウントゴールズワージー地域に産出する含微化石チャートの年代とその意義 (1 名古屋大・2 広島大) ○杉谷健一郎¹・中川内司²・三村耕一¹・日高洋²

10:55-11:15 2A06 (09-06 招待)

大気中亜硝酸の植物影響に関する研究 (広島大学) ○佐久川弘・松田敏英・森山友絵・Oguntimhin Ifemobayo Ifedayo

11:15-11:30 2A07 (09-07)

生理学的知見に基づく生物地球化学的指標の開発 (独立行政法人海洋研究開発機構) ○カ石嘉人

B会場 (E104)

セッション 20: 宇宙線生成核種の宇宙地球化学
コンピーナー: 西泉邦彦(UC バークレー)・南雅代(名大)・日高洋(広島大)

09:15-09:30 2B01 (20-01)

中性子捕獲反応によるオープンライト(エンスタタイトエコンドライト)隕石の Sm 同位体変動 (1 広島大学・2 国立科学博物館) ○近藤倫世¹・日高洋¹・米田成一²

09:30-09:45 2B02 (20-02)

Gibeon 鉄隕石中の宇宙線生成安定核種 ⁴⁶Sc (1 首都大学東京・2 日本大学) ○大浦泰嗣¹・本田雅健²・海老原充¹

09:45-10:00 2B03 (20-03)

アエンデ隕石コンドライトの宇宙線照射起源希ガスと宇宙線照射年代 (1 東京大学・2 ウィスコンシン大学マディソン校) 中村好伸¹・馬場謙一¹・中嶋大輔^{1,2}・長尾敬介¹

10:00-10:15 2B04 (20-04)

Yamato 75, chondrite group の宇宙線照射年代 (日本大学) ○本田雅健

<休憩>

10:20-10:35 2B05 (20-05)

樹木年輪中炭素 14 の分析による太陽活動の研究 (1 東京大学・2 名古屋大学) ○宮原ひろ子¹・横山祐典¹・松崎浩之¹・永治健太郎²・増田公明²・中村俊夫²

10:35-10:55 2B06 (20-06 招待)

大気 ¹⁴C 濃度変動と地域効果: 太陽活動-気候変動の相関を歴史に探る (国立歴史民俗博物館) ○今村孝雄・尾崎大真・坂本稔

10:55-11:10 2B07 (20-07)

標高の高い地域に生育する植物は低地の植物より ¹⁴C 濃度が高いのか? (1 名古屋大学年代測定総合研究センター・2 東北大学大学院理学研究科・3 東海大学海洋科学部・4 中国科学院西藏高原研) ○中村俊夫¹・渡邊隆広^{1,2}・太田友子¹・松中哲也³・西村弥重³・朱立平⁴

9月16日(第2日) 午前

C 会場 (E210)

セッション 16: 大気微量成分の地球化学

コンピーナー: 齊藤拓也(環境研)・角皆潤(北大)

09:00-09:15 2C01 (16-01)

丹沢大山における大気汚染物質の動態と樹冠への沈着
(¹山梨大学・²神奈川大学) ○松本潔¹・井川学²

09:15-09:30 2C02 (16-02)

陸域生態系における大気沈着窒素の浄化効率: 市販のミネラル・ウォーターを用いた評価 (北大院理) ○角皆潤・代田里子・小松大祐・中川書子

09:30-09:45 2C03 (16-03)

大気降下物標準試料中の異常ウラン同位体比 (¹上智大学大学院・²上智大学・³東京工業大学・⁴東京都市大学)
○山内理恵子¹・木田喜一²・小田幸平¹・野村雅夫³・本多照幸⁴・広瀬勝巳²・大井隆夫²

09:45-10:00 2C04 (16-04)

海洋表層水中の硝酸にみつけた大気沈着硝酸の痕跡とその分布 (北海道大学) ○小松大祐・大久保智・今野祐多・代田里子・中川書子・角皆潤

10:00-10:15 2C05 (16-05)

プロファイリングブイによる海表面ガスのサンプリング (岡山大学) ○岩田徹・廣江秀俊

10:15-10:30 2C06 (16-06)

改良 ¹⁵N トレーサー法による西部北太平洋海域における海洋窒素固定速度定量 (北海道大学) ○今野祐多・小松大祐・代田里子・桑原潤・木戸唯介・中川書子・角皆潤・松井崇人・鈴木光次

10:30-10:45 2C07 (16-07)

亜熱帯林生態系における塩化メチルの放出と吸収 (国立環境研究所) ○齊藤拓也・横内陽子

10:45-11:00 2C08 (16-08)

比較的高分子量な生物起源揮発性有機化合物の放出と特徴 (¹財団法人石油産業活性化センター・²National Center for Atmospheric Research・³DePaul University)
○松永社¹・Alex Guenther²・Mark Potosnak³・Eric Apel²

11:00-11:15 2C09 (16-09)

東京の大気エアロゾルに含まれる *n*-アルカンの分子レベル水素同位体組成の季節変化 (北海道大学低温科学研究所) ○山本真也・河村公隆

11:15-11:30 2C10 (16-10)

海洋エアロゾル中の低分子ジカルボン酸の粒径分布: 沖縄辺戸岬での観測 (北海道大学) ○河村公隆・Manuel Lazaar

D 会場 (E211)

セッション 14: バイオミネラリゼーションと石灰化—遺伝子から地球環境まで—

コンピーナー: 白井厚太郎(東大)・佐野有司(東大)・川幡穂高(東大)

09:00-09:15 2D01 (14-01)

イネ中のケイ酸の化学 (九州大学大学院理学研究院)
○白淑琴・岡上吉広・横山拓史

09:15-09:30 2D02 (14-02)

NanoSIMS による生物起源アパタイトの Sr 同位体比分析 (東京大学) ○豊島考作・高畑直人・白井厚太郎・北島宏輝・佐野有司

09:30-09:45 2D03 (14-03)

ニシン耳石中の微量元素組成の地理的差異 (¹東京大学海洋研究所・²東京大学大学院理学系研究科・³水産総合研究センター) ○山根広大¹・白井厚太郎¹・長倉義智³・山根幸伸¹・新井崇臣¹

09:45-10:00 2D04 (14-04)

二枚貝殻中の微量元素組成高分解能分析による海水塩濃度指標の抽出 (東京大学大学院) ○宮地鼓・白井厚太郎・榎部一成

10:00-10:15 2D05 (14-05)

²¹⁰Pb 法による宝石サンゴの骨軸成長速度について (¹放射線医学総合研究所・²高知大学・³産業技術総合研究所)
○山田正俊¹・岩崎望²・鈴木淳³・鄭建¹

10:15-10:30 2D06 (14-06)

ストロンチウムをマーカーとした高時間解像度でのサンゴ骨格成長部位の標識法 (¹東京大学・²北海道大学・³University of Western Australia) ○白井厚太郎¹・嶋康輝²・渡邊剛²・佐野有司¹・Clode Peta³

10:30-10:45 2D07 (14-07)

サンゴ礁地形の形成モデルとそのシミュレーション (¹北海道大学・²東北大学) ○中村隆志¹・中森亨²

10:45-11:00 2D08 (14-08)

海酸性化に呼応する大型有孔虫 *Marginopora kudakajimensis* の石灰化 (¹東京大学・²(独)産業技術総合研究所・³琉球大学) ○川幡穂高¹・黒柳あずみ¹・鈴木淳²・藤田和彦³

11:00-11:15 2D09 (14-09)

サンゴ骨格中のフッ素含量を規定する因子 (琉球大学)
○田中健太郎・大出茂

11:15-11:30 2D10 (14-10)

P-TIMS を用いた炭酸塩試料のホウ素同位体比精密分析法の開発 (¹(株)マリン・ワーク・ジャパン・²海洋研究開発機構) ○永石一弥¹・石川剛志²

9月16日(第2日) 午前

E会場 (E209)

セッション06:水圏環境地球化学

コンピーナー:高橋嘉夫(広島大)・福士圭介(金沢大)・松尾基之(東大)・光延聖(静岡県立大)

9:00-9:15 2E01 (06-22)

Occurrence of antifouling herbicide Diuron from Seto Inland Sea, Japan (Hiroshima University) ○Sarangaraja Balakrishnan・Kazuhiko Takeda・Hiroshi Sakugawa

9:15-9:30 2E02 (06-23)

溶存有機物からの低分子アルデヒドの光化学的生成とその光分解 (1) 広島大学大学院生物圏科学研究科・2 酪農学園大学 ○竹田一彦¹・三井裕美¹・加藤真也¹・中谷暢文²・佐久川弘¹

9:30-9:45 2E03 (06-24)

アロフェンへの金属イオンの吸着量に対する腐植酸の影響 (東京大学) ○伊藤祐生・小豆川勝見・松尾基之

9:45-10:05 2E04 (06-25 招待)

Field Flow Fractionationを用いた腐植物質-金属イオン相互作用に関する研究 (東京大学大学院工学系研究科) ○齊藤拓巳・山本昌寿・長崎晋也・田中知

10:05-10:20 2E05 (06-26)

静岡県河津鉱山におけるセレンとテルルの水-土壌間の分配挙動 (広島大学) ○来島望・高橋嘉夫

10:20-10:35 2E06 (06-27)

水-フェリハイドライト界面における硫酸の表面スペシエーション (金沢大学) ○青山和樹・永田貴洋・福士圭介

10:35-10:50 2E07 (06-28)

フェロン法を用いた、ケイ酸共存下におけるアルミニウム化学種の状態解析:ケイ酸濃度の影響 (1) 九大院理・2 栗田工業(株) ○齊藤智之¹・西田育子^{1,2}・島田雄樹¹・岡上吉広¹・横山拓史¹

10:50-11:05 2E08 (06-29)

台湾北東部龜山島東方沖における浅瀬海底熱水の地球化学的研究 (1) 富山大学・2 台湾中山大学 ○吉田加奈子¹・張勁¹・日下部実¹・佐竹洋¹・王冰潔²・陳鎮東²

11:05-11:20 2E09 (06-30)

方鉛鉱と閃亜鉛鉱への金(III)錯イオンの吸着・還元挙動 (九大院理) ○赤松美里・岡上吉広・横山拓史

9 月 16 日(第2日) 午後

Q 会場 (E102)

総会

13:30-15:00

受賞講演

15:00-15:20 2Q01 (奨励賞)

Hf 及び W 同位体比を用いた地球初期地殻進化の研究

○飯塚 毅 (オーストラリア国立大学地球科学研究所)

15:20-15:40 2Q02 (奨励賞)

バイオマーカーを用いた古気候変遷と物質循環に関する地球化学的研究

○関 宰 (北大低温研)

15:40-16:00 2Q03 (奨励賞)

海底熱水系における水-岩石反応過程とその表層環境に与える影響

○中村謙太郎 (海洋研究開発機構)

16:00-16:30 2Q04 (学会賞)

生元素同位体による自然と人類の持続的共生の仕組みに関する研究

○南川雅男 (北海道大学・院・地球環境科学研究所)

16:30-17:00 2Q05 (学会賞)

アイトポマー自然存在比の計測による地球表層物質循環の研究

○吉田尚弘 (東京工業大学大学院総合理工学研究科)

17:00-17:30 2Q06 (柴田賞)

Golden Age Determination-熱水鉱床の Te - Xe Dating

○高岡宣雄 (九州大学)

9月16日(第2日)ポスターセッション
P会場 (E203)、コアタイム:11:30~12:30
 (ポスターは10:30までに掲示、18:00までに撤去)

セッション 03: マントル物質の化学とダイナミクス

2P01 (03-P01)

The preliminary isotopic data of meimechite rocks from Far East Asia (1 海洋研究開発機構・2 ロシア科学アカデミー) ○佐藤佳子¹・平原由香¹・仙田量子¹・田村肇¹・熊谷英憲¹・鈴木勝彦¹・Vladimir Prikhodko²

セッション 22: 沈み込み帯の地球化学

2P02 (22-P01)

松代群発地震域の湧水の Li と Sr の同位体地球化学 (1 独) 海洋研究開発機構・2 信州大学) ○西尾嘉朗¹・塚原弘昭²

2P03 (22-P02)

マリアナ前弧域蛇紋岩海山産炭酸塩のヨウ素濃度 (1 国立環境研究所・2 東京大学大学院工学系研究科・3 学習院大学) ○加藤和浩¹・松崎浩之²・村松康行³

2P04 (22-P03)

珪長質深成岩中のアルカリ長石の LIL 元素の挙動 (鹿児島大学) ○山本温彦

2P05 (22-P04)

付加体中の炭酸塩鉱物脈の炭素・酸素同位体比から見た沈み込み帯地震発生帯の流体循環像 (1 高知大学・2 東京大学大学院理学系研究科) ○山口飛鳥¹・木村孝²

2P06 (22-P05)

蛇紋岩の透水率異方性と沈み込み帯での流体移動に関する考察 (広島大学) 川野誠也・○片山郁夫・岡崎啓史・嶋本利彦

セッション 07: 固体地球化学 (全般)

2P07 (102-P01)

スリランカ中央部、ハイランド複合岩体における結晶質石灰岩を用いた変成温度の推定と炭素同位体の挙動 (1 静岡大学大学院理学研究科・2 スリランカ基礎研究所) ○長田雄佑¹・K.V.W. Keheppannala²・和田秀樹¹

2P08 (102-P02)

地球内部の炭素含有物質: ミクロ炭酸塩の高圧合成実験 (山口大学) ○三浦保範

2P09 (102-P03)

Evaluation of matrix-matched calibration in laser ablation ICP-MS analysis of trace elements in geological samples (海洋研究開発機構) ○常青・木村純一・石川晃

2P10 (102-P04)

難溶性鉱物含有珪長質岩石試料の迅速微量元素定量分析法 (独立行政法人海洋研究開発機構) ○仙田量子・常青・木村純一

2P11 (102-P05)

ウラン・トリウム・鉛等の安全管理ー地質調査総合センターの例 (産業技術総合研究所地質調査総合センター) ○上岡晃・小笠原正継・青木正博

2P12 (102-P06)

岩石標準試料中の放射性核種定量の研究空間相互比較 (1 岡山理科大学・2 フランス国立自然史博物館) ○内田乃¹・豊田新¹・Helene Tissoux²・Christophe Falgères²・鶴川清隆¹

2P13 (102-P07)

信号再生法によるテフラの ESR 年代測定 (1 岡山理科大学・2 首都大学東京・3 フランス国立自然史博物館) ○浅越光矢¹・豊田新¹・鈴木毅彦²・Helene Tissoux³・Christophe Falgères³・Pierre Voinchet³

セッション 01: 堆積物/堆積岩の地球・環境化学

2P14 (01-P01)

愛知県東部～岐阜県南部の地球化学図と元素の分布要因についての考察 (1 名古屋大学環境学研究科地球環境科学専攻・2 名古屋大学年代測定研究センター・3 名古屋大学博物館) ○田中剛¹・山本鎮志¹・南雅代²・三村耕一¹・浅原良浩¹・吉田英一³・竹内誠¹

2P15 (01-P02)

MC-ICP-MS と気化法を用いた Re-Os 同位体組成迅速測定方法の開発 (予報) (1 独) 海洋研究開発機構・2 ハワイ大学) ○野崎連生¹・鈴木勝彦¹・Gregory Ravizza²・木村純一¹・常青¹

2P16 (01-P03)

琵琶湖水系における天然放射性核種ウラン・トリウム同位体挙動研究 (1 広島大学・2 金沢大学・3 財) むつ海洋研究所・4 琵琶湖環境科学研究センター) ○坂口 綾¹・山本政博²・富田純平²・小藤久毅³・青田容明²・熊谷道夫⁴

2P17 (01-P04)

南中国、ドウシャンツォキャップカーボネートの炭素・酸素同位体分析 (東工大) ○佐藤寿年・田畑美幸・澤木佑介・上野雄一郎・小宮剛・吉田尚弘

2P18 (01-P05)

重酸化的海底環境堆積物中における主要化学元素の挙動と色相変化 (1 東海大学・2 金沢大学・3 東京大学) ○山田悠香子¹・三上裕¹・南秀樹¹・長尾誠也²・小畑元³・谷野賢二¹・加藤義久¹

2P19 (01-P06)

九州および四国地域のストロンチウム同位体比地球化学図 (1 名古屋大学・2 首都大学東京・3 産業技術総合研究所) ○城森由佳¹・南雅代¹・後藤(桜井)晶子²・今井登³

セッション 13: 宇宙地球有機物とアストロバイオロジー

2P20 (13-P01)

有機物・微生物の宇宙曝露と宇宙塵・微生物の捕集実験 (たんぽぽ)、宇宙での微生物捕集と微生物生存可能性の検討 (1 東京理科大学・2 横浜国立大学・3 玉川大学・4 会津大学・5 ISAS/JAXA・6 千葉大学・7 独立行政法人日本原子力研究開発機構・8 東京工業大学・9 放射線医学総合研究所) ○河口優子¹・Yang Yinqie¹・杉野朋弘¹・藤崎健太²・横堀伸一¹・吉村義隆³・辻亮³・奥平恭子⁴・田嶋誠⁵・河合秀幸⁶・嶋海一成⁷・林宣宏⁸・吉田聡⁹・矢野創⁹・橋本博文⁹・山下雅道⁹・小林憲正²・山岸明彦¹

セッション 09: 地球化学と生理学の融合: 生命圏のフィジオロジーの探究

2P21 (09-P01)

西オーストラリア、ビルバラクラトン・マウントゴールズワージー地域におけるジルコンの年代学的考察 (1 広島大学・2 名古屋大学) ○中川内司¹・杉谷健一郎²・日高洋¹・三村耕一²

9月16日(第2日)ポスターセッション
P会場(E203)、コアタイム:11:30~12:30
 (ポスターは10:30までに掲示、18:00までに撤去)

2P22 (09-P02)

好熱性古細菌に特異なカルジトールの生合成における中間体の分析(九州大学)○中山裕輔・横山祐介・山内敬明

2P23 (09-P03)

ヒト血漿中のカルシウム同位体比測定⁽¹⁾東京工業大学・⁽²⁾独立行政法人国立健康・栄養研究所・⁽³⁾順天堂大学・⁽⁴⁾清泉女子大学・⁽⁵⁾国際医療福祉大学・⁽⁶⁾京都大学○山崎絵里香¹・田中佑樹¹・菅彰信¹・田野島三奈¹・永田雄一¹・高田和子²・篠原厚子^{3,4}・千葉百子^{3,5}・平田岳史^{1,6}

2P24 (09-P04)

化石ゴールのバイオマーカー分析:植物-昆虫共生系の古生物化学的探索⁽¹⁾北海道大学・⁽²⁾大阪市立自然史博物館○落合総一郎¹・○沢田健¹・中村英人¹・塚腰実²・秋元信一¹

セッション104:大気圏地球化学(全般)

2P25 (104-P01)

Geochemical Significance of ¹⁴C and ⁸⁷Sr/⁸⁶Sr isotopic data of the Dongrae and Pohang hot spring waters, Korea⁽¹⁾Korea Institute of Geoscience and Mineral Resources, Korea, ⁽²⁾Center for Chronological Research, Nagoya University, Japan) ○Seung-Gu Lee¹, Toshio Nakamura², Tong-Kwon Kim¹, Tomoko Ohta², Tae Jong Lee¹

2P26 (104-P02)

琥珀中に取込まれた古大気の希ガス同位体比測定(大阪大学大学院理学研究科)○荒川裕子・下良拓・松田准一

2P27 (104-P03)

2009年に東大阪で観測された黄砂粒子の個別粒子分析⁽¹⁾近畿大学大学院・⁽²⁾近畿大学○山口和宏¹・中口謙²・向井苑生²

セッション02:土壌・陸域生態系の物質循環

2P28 (02-P01)

植物を介した黄砂粒子の風化に伴う化学形態変化に関する実験的研究(九州大学)○長嶺篤・赤木右

2P29 (02-P02)

淀川水系における化学成分の広域分布と生態系の関係⁽¹⁾近畿大学・⁽²⁾大阪市立大学・⁽³⁾大阪市立自然史博物館○山中康平¹・長谷川徹¹・冬野正史¹・益田晴恵²・中口謙¹・滝川真矢¹・宇根山綾香¹・山崎恵美子¹・中條武司³・大阪市立自然史博物館淀川水系調査グループ水質班³

2P30 (02-P03)

ヨウ素の土壌への蓄積^{~127I}及び^{129I}の分析と吸着メカニズムに関する研究⁽¹⁾学習院大学・⁽²⁾東京大学○伊藤絵理佳¹・村松康行¹・松崎浩之²

2P31 (02-P04)

Characterizing the methane cycle in lake system using isotopic signature in Lake Kizaki, Japan⁽¹⁾Federal Institute of Technology, Zurich・⁽²⁾Tokyo Institute of Technology・⁽³⁾Tokyo University of Agriculture and Technology) ○Loic Lombard^{1,2}・Keita Yamada²・Shohei Hattori²・Yuji Sasaki²・Akiko Makabe²・Keisuke Koba³・Naohiro Yoshida³

2P32 (02-P05)

中央アルプス千畳敷における降水中化学物質濃度と硝酸の安定同位体比の特徴(東京農工大学)○酒井顕子・橋宗興・木庭啓介・宮本侑・竹林佑

セッション04:海洋における微量元素・同位体の分布と循環

2P33 (04-P01)

オホーツク海中央海底の堆積物直上海水の全可溶マンガ・鉄濃度⁽¹⁾海上保安大学校)○川村紀子¹・YK07-12乗船研究者一同

2P34 (04-P02)

日本海盆における²²⁸Raと²²⁶Raの鉛直分布からみた海水循環⁽¹⁾金沢大学・⁽²⁾中央水産研究所)○吉田圭佑¹・皆川昌幸²・井上陸夫¹・中野佑介¹・浜島靖典¹・山本政儀¹

2P35 (04-P03)

海洋深層へのヘリウム-3人為散布による海洋深層流評価の試み(東京大学)○亀田綾乃・高畑直人・北島宏輝・藤尾伸三・田中潔・佐野有司

2P36 (04-P04)

トリチウム-ヘリウム-3法による海水の年代測定⁽¹⁾東京大学・⁽²⁾九州大学)○高畑直人¹・佐野有司¹・白井厚太郎¹・百島則幸²

セッション18:大気圏・水圏とそれらの相互作用、気候変化

2P37 (18-P01)

植物由来揮発性有機化合物のマクロ固相抽出-ガスクロマトグラフィー同位体比質量分析法による炭素安定同位体比分析⁽¹⁾東京工業大学・⁽²⁾キリンホールディングス(株)フロンティア技術研究所)○柴田裕樹¹・山田桂大¹・服部良太²・豊田栄¹・吉田尚弘¹

2P38 (18-P02)

サンゴ骨格中の鉛同位体比を用いた最終氷期における南太平洋東部の環境復元⁽¹⁾東京大学・⁽²⁾海洋研究開発機構・⁽³⁾産業技術総合研究所)○井上麻夕里¹・横山祐典^{1,2}・谷水雅治²・鈴木淳³・川崎穂高¹

2P39 (18-P03)

長距離輸送途上で起こる鉱物エアロゾル中の鉄化学種の変化(Ⅱ)~EXAFS・電子収量 XANESによるエアロゾル中の鉄化学種の精密解析~(広島大学大学院)○東将之・高橋嘉夫・清水洋

2P40 (18-P04)

洞爺湖におけるメタンの挙動(酪農学園大学)○安藤達哉・林えれな・吉田磨

2P41 (18-P05)

農地を流れる河川とその河口・沿岸海洋の環境とメタンの挙動(酪農学園大学)○大類壮央・窪田千穂・河島弘幸・土屋愛・吉田磨

セッション16:大気微量成分の地球化学

2P42 (16-P01)

日本上空における対流圏水素濃度の時空間分布とモデルによる再現⁽¹⁾(独)海洋研究開発機構・⁽²⁾名古屋大学・⁽³⁾宮城教育大学・⁽⁴⁾東北大学)○八代尚¹・滝川雅之¹・須藤健悟²・菅原敏³・青木周司⁴・中澤高清⁴

9月17日(第3日) 午前

A会場 (E002)

セッション 02: 土壌・陸域生態系の物質循環

コンピーナー: 杉本敦子(北大)・八木一行(農環研)・赤木右(九大)・高橋善幸(環境研)・楊宗興(東京農工大)

09:00-09:20 3A01 (02-01 招待)

温暖化環境下における森林土壌微生物呼吸と土壌炭素収支 (国立環境研究所・¹広島大学・²静岡大学・³北海道大学・⁴弘前大学・⁵宮崎大学) 梁乃申¹・中根周歩²・角張嘉幸³・高木健太郎⁴・石田祐宣⁵・高木正博¹

09:20-09:35 3A02 (02-02)

土壌中 CO₂ 及び Rn 濃度を用いた地表面 CO₂ フラックスの推定 (名古屋大学) ○太田雅和・山澤弘実

09:35-09:50 3A03 (02-03)

炭素同位体比を用いた森林土壌呼吸中の根呼吸量の評価 (名古屋大学大学院工学研究科) ○蜂谷真史・山澤弘実・森泉純

09:50-10:05 3A04 (02-04)

土壌有機物とその分解放出 CO₂ の炭素同位体比 (名古屋大学・¹日本原子力研究開発機構) ○守屋耕一¹・森泉純¹・山澤弘実¹・小嵐淳²・安藤麻里子²

10:05-10:20 3A05 (02-05)

定常状態系における Δ¹⁴C モデルによる物質の平均滞留時間解析法の提案とその応用 (九州大学) ○赤木右

10:20-10:35 3A06 (02-06)

菌根菌と土壌動物(ミミズ)による土壌中可給態リンへの相乗効果 (日本女子大学・¹農業・食品産業技術総合研究機構) ○岩永百合¹・小島知子²・宮崎あかね¹

<休憩>

10:40-11:00 3A07 (02-07 招待)

瀬戸内海流域における土壌・水圏水質に及ぼす山火事の影響 (広島大学) ○小野寺真一

11:00-11:15 3A08 (02-08)

Investigation of methane emission during sewage water treatment in Japan through carbon isotope ratio (Tokyo Institute of Technology・Tokyo Metropolitan Government) ○Wu Chen¹・Keita Yamada¹・Sakae Toyoda¹・Naohiro Yoshida¹・Rina Kono²・Koki Murayama²

11:15-11:30 3A09 (02-09)

北海道美瑛市宮島沼周辺の早期湛水・有機栽培水田におけるメタン放出 (北海道大学・¹酪農学園大学・²宮島沼水鳥湿地センター) ○藤原沙弥香¹・吉田磨²・牛山克己²

11:30-11:45 3A10 (02-10)

湿潤熱帯域で知られる土壌の"酸性"と anthropogenic な生態系酸性化 (東京農工大学・¹中国科学院华南植物学研究所) ○楊宗興¹・磯貝ゆりか¹・Yunting Fang²・Jiangming Mo²

11:45-12:00 3A11 (02-11)

西表島の土壌の酸緩衝能に関する研究 (九大院理・¹九州環境管理協会・²琉大文・³鹿大農・⁴総合地球環境学研究所) ○倉本宏之¹・川上純子¹・栗崎弘輔¹・天日美薫²・廣瀬孝³・井倉洋二⁴・高相徳志郎²・吉村和久¹

12:00-12:15 3A12 (02-12)

年輪の炭素同位体比を用いた東シベリアタイガ林の過去の水分環境と炭素循環の解析 (北海道大学・¹鳴門教育大学・²ロシア科学アカデミー寒冷圏生物学研究所) ○鄭峻介¹・杉本敦子¹・米延仁志²・T.C. Maximov²

12:15-12:30 3A13 (02-13)

東シベリアタイガ林における大気水蒸気同位体比の数日～数週間の変動要因 (北大) ○上田哲大・杉本敦子

B会場 (E104)

セッション 20: 宇宙線生成核種の宇宙地球化学

コンピーナー: 西泉邦彦(UCバークレー)・南雅代(名大)・日高洋(広島大)

09:15-09:30 3B01 (20-08)

鳥海神代杉年輪による2600年小ピークの¹⁴C濃度変動について (山形大学) ○高橋唯・櫻井敬久・鈴木佳代・佐藤太一・郡司修一・門叶冬樹

09:30-09:45 3B02 (20-09)

石灰質砂岩の放射性炭素を指標とする風化評価の試みーコンクリートの組織劣化に関するナチュラアナログ研究としてー (名古屋大学) ○南雅代・吉田英一・田中剛

09:45-10:00 3B03 (20-10)

宇宙線生成核種を用いた地表面の侵食速度の定量: 日本列島における適用例 (東京大学・¹筑波大学) ○松田雄騎¹・松倉公憲²・笹公和²・松崎浩之¹

10:00-10:15 3B04 (20-11)

地表岩石中のマグネタイトにおける宇宙線生成半減期放射性核種 (高エネルギー加速器研究機構・¹米国バークレー校・²米国カリフォルニア大学バークレー校) ○松村宏^{1,2}・Marc W. Caffee²・Kees Welten²・西泉邦彦²

10:15-10:30 3B05 (20-12)

物質中の環境中性子深度分布とエネルギー分布ー尾小屋地下実験室での微弱放射能測定ー (金沢大学) ○浜島靖典

<休憩>

10:35-10:55 3B06 (20-13 招待)

ドームふじアイスコア中の宇宙線生成核種 (弘前大学・¹東京大学・²筑波大学・³国立極地研究所) ○堀内一穂¹・松崎浩之²・笹公和³・本山秀明⁴

10:55-11:10 3B07 (20-14)

大気中⁷Be・¹⁰Be濃度を用いた成層圏-対流圏交換速度の評価 (日本大学大学院・¹福岡県保健環境研究所・²日本大学・³東京大学大学院) ○山形武晴¹・植崎幸範²・池田祐一郎³・永井尚生³・松崎浩之⁴

11:10-11:25 3B08 (20-15)

¹²⁹IのAMS分析とその地球化学的試料への応用:ヨウ素に富んだ地下流体の起源に関する研究 (学習院大・¹東工大・²産総研・³東京大学) ○村松康行¹・柏木佑¹・大場武²・風早康平³・松崎浩之⁴

11:25-11:40 3B09 (20-16)

20世紀初頭に採取された海藻試料を用いた初期¹²⁹I/¹²⁷I比の検討 (東京大学・¹日本大学) ○宮入陽介¹・松崎浩之¹・近藤啓介²

11:40-11:55 3B10 (20-17)

¹²⁹I-AMSによる天然のヨウ素同位体システムの研究 (東京大学・¹学習院大学・²京都大学) ○松崎浩之¹・村松康行²・馬原保典²・宮入陽介¹・渡辺聡¹・阿部恭子¹

9月17日(第3日) 午前

C会場 (E210)

セッション 22: 沈み込み帯の地球化学

コンピーナー: 石川剛志(JAMSTEC)・片山郁夫(広島大)

09:00-09:15 3C01 (22-01)

Geochemistry and tectonic setting for three magmatic arcs in the northwest Iran (Univ. Kurdistan) ○Hossein Azizi

09:15-09:30 3C02 (22-02)

広域変成作用に伴う岩石の元素組成の変化-三波川帯泥質片岩を対象にして(名古屋大学大学院) ○藤原早絵子・山本鋼志・三村耕一

09:30-09:45 3C03 (22-03)

北部伊豆火山岩の微量元素・同位体組成から見たスラブ脱水・流体移動と元素分別(JAMSTEC) ○石川剛志

09:45-10:00 3C04 (22-04)

The petrogenesis of boninite and high Mg adakite (Tokyo Inst. of Technology, The Univ. of Tokyo, Tohoku Univ., JAMSTEC) ○Yibing Li¹, Shiki Machida², Akira Ishiwatari³, Teruaki Ishii⁴, Jun-ichi Kimura⁴, Mayumi Otsuki², Naoto Takahata²

セッション 03: マントル物質の化学とダイナミクス

コンピーナー: 下田玄(産総研)・小木曾哲(京大)・鈴木勝彦(JAMSTEC)

10:00-10:20 3C05 (03-01 招待)

ブルームに関連しない太平洋上部マントル中のリサイクルされたプレート物質の証拠(東大・東北大・海洋研究開発機構) ○町田嗣樹¹・平野直人²・木村純一³

10:20-10:35 3C06 (03-02)

スーパープリュームの同位体組成の永年変化: 常盤海山列からの制約(産業技術総合研究所・神戸大学・岡山大学・国立極地研究所) ○下田玄¹・石塚治²・山下勝行^{2,3}・吉武美和^{2,4}・小笠原正紀¹・湯浅真人¹

10:35-10:50 3C07 (03-03)

中央インド洋南緯 15-18°の中央海嶺軸に産する玄武岩質急冷ガラスの全岩化学組成の多様性(東大・地震研・東大・海洋研・新潟大・理・東大・工) ○折橋裕二¹・マルコ・マニアニ¹・町田嗣樹¹・根尾夏紀²・安田敦³・玉木賢策⁴

10:50-11:05 3C08 (03-04)

マントルの地球化学組成成分と地震学的・鉱物学的構造(東京大学・リヨン高等師範・産業技術総合研究所) ○岩森光¹・Francis Albarède²・中村仁美³

11:05-11:25 3C09 (03-05 招待)

オリビンとフェロサイト多結晶体の不適合元素拡散(九州大学・筑波大学) ○富永愛子¹・加藤工¹・久保友明¹・黒澤正紀²

11:25-11:40 3C10 (03-06)

中国及び南アフリカ産キンバーライトのハロゲン元素組成(学芸院大・京都大・WHOI・東京大) ○遠山知重¹・村松康行¹・梶谷浩¹・山本順司^{2,3}・中井俊一⁴・兼岡一郎⁴

11:40-11:55 3C11 (03-07)

均質的な同位体比を示すマントル起源物質は何を示唆しているのか?(東京大学地震研究所) ○兼岡一郎

11:55-12:10 3C12 (03-08)

モナザイトの U-Pb 年代及び Sm-Nd 同位体組成から読み取る初期地殻-マントル進化(オーストラリア国立大学) ○飯塚毅・McCulloch T. Malcolm

12:10-12:25 3C13 (03-09)

レールズライト中のガラス包有物に伴う白金族鉱物: メルトで運ばれた白金族元素?(京大・独立行政法人海洋研究開発機構・高輝度光科学研究センター) ○小木曾哲¹・鈴木勝彦²・鈴木敏弘³・上杉健太郎³・小林記之¹

D会場 (E211)

セッション 01: 堆積物/堆積岩の地球・環境化学

コンピーナー: 山本鋼志(名大)・鈴木勝彦・黒田潤一郎(JAMSTEC)・浅原良浩(名大)

09:00-09:20 3D01 (01-01 招待)

Re-Os 放射線変遷系を利用した顕生代の海洋環境変動の解明(東京大学・海洋研究開発機構) ○加藤泰浩¹・藤永公一郎¹・野崎達生¹・鈴木勝彦²

09:20-09:40 3D02 (01-02 招待)

白亜紀中期の古環境変動研究(独立行政法人海洋研究開発機構・愛媛大・フィリピン大) ○黒田潤一郎¹・鈴木勝彦¹・谷水雅治¹・堀利栄²・Maria L.G. Tejada³・柏山祐一郎¹・小川奈々子¹・大河内直彦¹

09:40-09:55 3D03 (01-03)

ペルム紀末大量絶滅時のパンサラッサ海遠洋域における硫化合物硫黄同位体比変動(東北大学理学研究科) ○高橋聡・海保邦夫・渡邊隆広・掛川武・大庭雅寛

09:55-10:10 3D04 (01-04)

ペルム紀/トリアス紀境界における海水 Os 同位体組成の急激な変動(東京大学・海洋研究開発機構・芦屋大学) ○加藤泰浩¹・鈴木勝彦²・藤永公一郎¹・西内隆純¹・黒田潤一郎²・桑原希世子³

10:10-10:25 3D05 (01-05)

多摩川上流における河川水・堆積物中の元素濃度分布および存在形態についての地球化学的研究と下流域との比較(慶應義塾大学) ○岡田佑輔・鹿園直建

10:25-10:40 3D06 (01-06)

木曾三川河口域堆積物の地球化学的特徴(名古屋大学環境学研究科) ○平松裕亮・杉谷健一郎・上野振一郎

セッション 19: ナノジオケミストリー・地球の物質の基礎化学

コンピーナー: 鍵裕之(東大)・宇都宮聡(九大)・太田充恒(産総研)

10:45-11:00 3D07 (19-01)

アパタイト-水溶性鉛相互作用によるナノスケール現象(九州大学大学院) ○上石瑛伍・宇都宮聡

11:00-11:15 3D08 (19-02)

アスパラギン酸による炭酸カルシウムクラスターの安定化(東大・防衛大学校) ○吉野徹¹・神谷奈津美²・鍵裕之¹

11:15-11:30 3D09 (19-03)

赤鉄鉱($\alpha\text{-Fe}_2\text{O}_3$)ナノ粒子のサイズ制御合成とその有害金属取り込み機構に関する研究(九州大学) 森亮順・稲木圭・宇都宮聡

11:30-11:45 3D10 (19-04)

Biomining of REE phosphate nano-minerals by *Saccharomyces cerevisiae* (Kyushu Univ., JAEA ASRC) ○Mingyu Jiang^{1,2}・Toshihiko Ohnuki²・Naofumi Kozai²・Kazuya Tanaka²・Yoshinori Suzuki²・Satoshi Utsunomiya¹

11:45-12:00 3D11 (19-05)

EXAFSを用いた土壌中における6価クロムの還元反応機構解明(産業技術総合研究所・東京大学大学院理学研究科・横浜国立大学・高エネルギー加速器研究機構) ○太田充恒¹・鍵裕之²・津野宏³・野村昌治⁴

12:00-12:15 3D12 (19-06)

ランタニド(III)酸化物系列のエンタルピー温度変化と Jørgensen-Kawabe 式の新展開: 熱膨張で増大する Racah パラメーター(名古屋大学大学院環境学研究科) ○川邊岩夫・平原靖大

9月17日(第3日) 午前

E会場 (E209)

つづき (D会場 セッション19)

12:15-12:30 3D13 (19-07)

含水地球深部鉱物の高圧下での水素結合対称化と同位体効果 (1)東大・2)原研・3)物質材料研究機構)○鍵裕之¹・牛嶋大地¹・佐野亜沙美²・小松一生¹・飯塚理子¹・中野智志³

セッション 04: 海洋における微量元素・同位体の分布と循環

コンピーナー: 則末和宏(京大)・天川裕史(東大)・大久保綾子(東大)

09:00-09:15 3E01 (04-01)

南半球亜熱帯における核実験起源炭素14とセシウム137の分布 (1)海洋研究開発機構・2)気象研究所)○熊本雄一郎¹・青山道夫²・村田昌彦¹・渡邊修一¹・深澤理郎¹

09:15-09:30 3E02 (04-02)

太平洋中緯度海域における bottom scavenging の影響 (1)東京大学大学院農学生命科学研究科・2)東京大学海洋研究所)○大久保綾子¹・小畑元²・蒲生俊敏²

09:30-09:45 3E03 (04-03)

インド洋および太平洋における¹⁰Be濃度の鉛直分布 (1)日本大学大学院・2)日本大学・3)東京大学大学院)○佐藤広美¹・市川友弘²・山形武靖¹・田副博文²・永井尚生²・松崎浩之³

09:45-10:00 3E04 (04-04)

西部南太平洋におけるネオジム同位体比の分布 (東京大学海洋研究所)○天川裕史

10:00-10:15 3E05 (04-05)

南極海西経170度測線における生物活性微量元素の断面分布 (京都大学化学研究所)○則末和宏・南知晴・肥後衣里・松成恭博・宗林由樹

10:15-10:30 3E06 (04-06)

中央太平洋におけるバリウムの断面分布: 古海洋プロキシの開発に向けて (東海大学)○加藤義久・中村智巳

<休憩>

10:40-10:55 3E07 (04-07)

東京湾周辺域における白金と銀の挙動 (1)東京大・2)日本大)○小畑元¹・Antoni Ferrer I Santos¹・田副博文^{1,2}・堤真¹・蒲生俊敏¹

10:55-11:10 3E08 (04-08)

海洋における有機セレンのスペシエーション (1)近畿大学・2)近畿大学大学院)○中口譲¹・竹内誠²・冬野正史²・西内明¹

11:10-11:25 3E09 (04-09)

水圏のモリブデン同位体組成 (1)京都大学化学研究所・2)京都大学理学研究科)○中川裕介¹・M. Lutfi Firdaus¹・則末和宏¹・宗林由樹¹・平田岳史²

11:25-11:45 3E10 (04-10 招待)

分子地球化学: 化学種解析による微量元素の性質の精密化がもたらす地球化学の新展開 (広島大学)○高橋嘉夫

11:45-12:00 3E11 (04-11)

海洋沈降粒子中の有機炭素安定同位体比の季節変動要因解析 (1)北海道大学大学院地球環境科学研究院・2)環境総合テクノス)○重光雅仁¹・山中康裕¹・渡辺豊¹・岡田直資¹・前田亘宏²・栗木新一郎¹

12:00-12:15 3E12 (04-12)

日本海におけるBa²⁺粒子束~Ba₀の水平輸送について~ (1)北海道大学・2)独立行政法人日本原子力研究開発機構・3)独立行政法人水産総合研究所センター中央水産研究所・4)東海大学)○奥俊輔¹・乙坂重嘉²・皆川昌幸³・南秀樹⁴・栗木新一郎¹

12:15-12:30 3E13 (04-13)

東シナ海の堆積物における希土類と栄養塩の分布の解明 (富山大学)○柏藤麗・張勁

9月17日(第3日) 午後

A会場 (E002)

セッション 102: 固体地球化学 (全般)
コンピーナー: 日高洋 (広島大)

13:30-13:45 3A14 (102-01)

木曾御嶽山周囲のヘリウム同位体比の変動 (1 東京大学海洋研究所・2 海洋研究開発機構) ○佐野有司¹・高畑直人¹・西尾嘉朗²

13:45-14:00 3A15 (102-02)

ジルコン中の放射壊変系列核種の分析 (1 京都大学大学院・2 東京大学・3 東京工業大学大学院) ○平田岳史¹・折橋裕二²・岡林謙起³・横山隆臣¹・横山哲也³

14:00-14:15 3A16 (102-03)

NanoSIMS を用いた微小領域分析によるジルコン/メルト間での希土類元素の分配係数の決定 (東京大学) ○北島宏輝・高畑直人・佐野有司

14:15-14:30 3A17 (102-04)

La-Ce and Sm-Nd isotopic systematics of Early Proterozoic leucogranite with tetrad effect (1 Korea Institute of Geoscience and Mineral Resources・2 Nagoya University・3 Pukyong National University・4 University of Tokyo) ○Seung-Gu Lee¹・Yoshihiro Asahara²・Nam Hoon Kim³・Kun Han Kim¹・Tsuyoshi Tanaka²・Akimasa Masuda⁴・Yong Sun Song³

14:30-14:45 3A18 (102-05)

海底衝突指標物質: 衝突ガラス LDSG、秋吉と高松 (1 山口大学理工学院・2 AIGU Univ) ○三浦保範¹・Gabriel Iancu²

B会場 (E104)

セッション 13: 宇宙地球有機物とアストロバイオロジー
コンピーナー: 小林憲正 (横国大)・三田肇 (福岡工大)

13:30-13:45 3B12 (13-01)

分子雲中での高分子型アミノ酸前駆体の生成とその地球への供給 (1 横浜国立大・2 放射線医学総合研究所・3 大阪大・4 Lawrence Berkeley Nat. Lab.・5 海洋研究開発機構・6 日本電信電話株式会社・7 福岡工業大・8 宇宙航空研究開発機構・9 東京薬科大) ○小林憲正¹・伏見英彦¹・元山拓也¹・谷内俊範¹・金子竹男¹・吉田聡²・藪田ひかる³・長谷川紀昭³・A. L. D. Kilcoyne⁴・高野淑識⁵・高橋淳一⁶・三田肇⁷・橋本博文⁸・横堀伸一⁹・山岸明彦⁹

13:45-14:00 3B13 (13-02)

マーズソン隕石から得られた不溶性有機物の化学構造 (1 名古屋大学・2 石油資源開発株式会社) ○三村耕一¹・奥村文章²

14:00-14:15 3B14 (13-03)

走査型透過 X 線顕微鏡 - X 線吸収端近傍構造分光法による炭素質コンドライト有機物の直接分析 (1 大阪大・2 福岡工業大・3 横浜国立大・4 Lawrence Berkeley Nat. Lab.) ○藪田ひかる¹・三田肇²・小林憲正³・長谷川紀昭¹・A. L. D. Kilcoyne⁴

14:15-14:30 3B15 (13-04)

アラニン固相薄膜への円偏光照射による光学異方性発現 (1 NTT・2 横浜国立大・3 福岡工業大・4 分子科学研究所・5 名古屋大) ○高橋淳一¹・篠島弘幸¹・島村一郎²・鈴木孝嗣³・金子竹男⁴・小林憲正⁵・三田肇⁶・阿達正浩⁴・保坂将人⁶・加藤政博⁴

14:30-14:45 3B16 (13-05)

地球周回軌道で捕集したダスト中のアミノ酸分析法の検討 (1 横浜国立大・2 千葉大・3 産業技術総合研究所・4 東京薬科大・5 福岡工業大・6 東京工業大・7 宇宙航空研究開発機構) ○伏見英彦¹・金子竹男¹・河合秀幸²・丸茂克美³・横堀伸一⁴・三田肇⁵・林宣宏⁶・田端誠⁷・矢野創¹・小林憲正¹・山岸明彦⁴・たんぽぽ WG⁷

14:45-15:00 3B17 (13-06)

冥王代後期の大気海洋組成への後期重爆撃の影響 (1 東北大学・2 物質材料研究機構) ○古川善博¹・関根利守²・大庭雅寛¹・掛川武¹・中沢弘基²

15:00-15:15 3B18 (13-07)

The effect of pressure on aqueous amino acid solutions under hydrothermal conditions (カーネギー研究所) ○大原祥平・George D. Cody

15:15-15:30 3B19 (13-08)

海底熱水環境における前生物的化学進化 (長岡技術科学大学) ○今井栄一・竹花英朗・本多元

15:30-15:45 3B20 (13-09)

加熱重合により生成するタンパク質様物質の質量分析 (福岡工業大学) ○桑原裕典・三田肇

15:45-16:00 3B21 (13-10)

原始地球環境におけるオリゴペプチド生成反応に対する縮合剤および鉱物の影響 (大阪府立大学) ○川村邦男・竹家均・橋部崇夫

16:00-16:15 3B22 (13-11)

有機物分析による南極の生態系解析 (1 福岡工業大・2 横浜国立大・3 玉川大・4 大阪大・5 安田女子大) ○三田肇¹・赤瀬詩¹・佐藤明日佳¹・小林憲正²・佐藤修司²・永縄一樹³・吉村義隆³・藪田ひかる⁴・小川麻里⁵

9月17日(第3日) 午後

C会場 (E210)

つづき (B会場 セッション13)

16:15-16:35 3B23 (13-12 招待)

蛍光顕微鏡法による地球圏外生命探査法 (1 玉川大学・
2 IAS 総合科学研究所・3 北里大学) ○吉村義隆 1・河崎行
繁 2・辻寛 3

セッション 21: 東アジアのテクトニクスと地球化学

コンピーナー: 早坂康隆(広島大)・Moonsup Cho(ソウル
大)・宮本隆実(広島大)・永広昌之(東北大)・坂井卓(九
大)

13:30-13:45 3C14 (21-01)

古生物地理から見た東アジアの古生代テクトニクス-南部
北上古陸, ハンカ地塊, ラサ地塊の古地理- (東北大) ○
永広昌之

13:45-14:00 3C15 (21-02)

飛騨帯東部宇奈月地域における変成作用の年代学的考
察 (1 国立極地研究所・2 国立科学博物館・3 ソウル国立大
学・4 広島大学・5 産業技術総合研究所) ○堀江憲路 1・堤
之恭 2・Moonsup Cho 3・日高洋 4・森下祐一 5

14:00-14:15 3C16 (21-03)

SHRIMP U-Pb geochronology of detrital zircons in the
Upper Paleozoic Taean Formation, Korea: Implications for
tectonic correlation in East Asia (Seoul National
University) ○Moonsup Cho

14:15-14:30 3C17 (21-04)

砕屑性年代学を用いた関門層群と韓国慶尚超層群の対
比 (広島大学大学院) ○勝部垂矢

14:30-14:45 3C18 (21-05)

白亜紀前期の東アジアの堆積盆テクトニクス (1 九州大学
大学院・2 早稲田大学教育) ○坂井卓 1・平野弘道 2

14:45-15:00 3C19 (21-06)

砕屑性ザクロ石の化学組成および砕屑性ジルコンの年代
分布からみた西南日本のペルム紀-ジュラ紀後背地の
変遷とテクトニクス (広島大学大学院理学研究科) ○宮
本隆実・早坂康隆

15:00-15:15 3C20 (21-07)

西南日本のジュラ系の砕屑性ジルコンの年代分布に見ら
れる広域変化 (広島大学大学院理学研究科) ○早坂康
隆・宮本隆実・上東央

15:15-15:30 3C21 (21-08)

山口県上関町祝島に分布する傾家変成岩の原岩の帰属
についての研究 (広島大学) ○上東央

15:30-15:45 3C22 (21-09)

舞鶴帯南帯夜久野岩類の地球化学的・年代学的特徴に
みる夜久野オフィオライトのテクトニックモデル (大阪市立
大学) ○隅田祥光

15:45-16:00 3C23 (21-10)

西南日本内帯の古生代緑色岩類の岩石学と SHRIMP を
用いたジルコン年代学へ向けた予備的研究 (1 広島大学・
2 大阪市立大学) ○木村光佑 1・隅田祥光 2

9月17日(第3日) 午後

D会場 (E211)

セッション 18: 大気圏・水圏とそれらの相互作用、気候変化
コンピーナー: 吉田尚弘(東工大)・植松光夫(東大)・野尻
幸宏(環境研)

13:30-13:50 3D14 (18-01 招待)
過去の気候変化と大気中二酸化炭素の自然変化に関する
モデリング (1 東京大学・2 海洋研究開発機構) ○阿部
彩子^{1,2}・大石龍太¹・近本めぐみ²・岡田¹

13:50-14:10 3D15 (18-02 招待)
IODP タヒチのサンゴを用いたターミネーション II の決定に
よる地球表層環境システムの理解 (1 東京大学・
2 JAMSTEC) ○横山祐典

14:10-14:25 3D16 (18-03)
春季三陸沖における海洋大気中の窒素とリン化合物 (東
京大学) ○鄭進永・古谷浩志・植松光夫

14:25-14:40 3D17 (18-04)
単一エアロゾル質量分析法による夏季北太平洋における
大気エアロゾルの物理化学的特性と緯度分布 (1 東京大
学・2 東京理科大学) ○古谷浩志¹・鄭進永¹・三浦和彦²・
植松光夫¹

14:40-14:55 3D18 (18-05)
春季黄砂時における西部北太平洋への鉱物粒子沈着フ
ラックス (1 名古屋大学・2 東海大学・3 東京理科大学・4 東京
大学・5 九州大学) ○岩本洋子¹・虎谷充浩²・三浦和彦³・
津田敦⁴・鶴野伊津志⁵・植松光夫⁴

<休憩>

15:00-15:15 3D19 (18-06)
太平洋 WOCE-P01・P03・P21 における溶存メタンの動態
(1 酪農学園大学・2 太平洋セメント株式会社・3 東京工業大
学・4 JAMSTEC) ○吉田磨¹・今井翔¹・河野恒平²・豊田
栄³・窪田千穂¹・藤井彩子³・山田桂大³・渡邊修一⁴・吉田
尚弘⁵

15:15-15:30 3D20 (18-07)
氷期の気候場に対する海洋炭素循環の応答 (1 海洋研究
開発機構・2 東京大) ○近本めぐみ¹・阿部彩子²・岡田²・
大塩内るみ¹

15:30-15:45 3D21 (18-08)
Doubly substituted isotopomer analysis for carbonate
paleo-temperature and latitudinal reconstruction of Indian
plate during Phanerozoic period. (1 Tokyo Institute of
Technology・2 Indian Institute of Sciences) ○Vasiliev
Mikhail¹・Prosenjit Ghosh²・Sarkar Soumen²・Parthasarathi
Ghosh²・Keita Yamada¹・Naohiro Yoshida¹

15:45-16:00 3D22 (18-09)
二酸化炭素の海域地中貯留における環境影響評価 (財
団法人電力中央研究所) ○大隅多加志

16:00-16:15 3D23 (18-10)
黒潮-親潮混合域における大気と海水の臭素系ハロカ
ーボンの測定 (国立環境研究所) ○大木淳之・横内陽子

16:15-16:30 3D24 (18-11)
長距離輸送途上で起こる鉱物エアロゾル中の鉄化学種の
変化 (1 広島大学大学院) ○東将之・高橋嘉夫・清水洋

E会場 (E209)

セッション 104: 大気水圏地球化学 (全般)
コンピーナー: 佐久川弘(広島大)・竹田一彦 (広島大)

13:30-13:45 3E14 (104-01)
群馬県万座温泉の熱水系の検討 (上智大学) ○木川田
喜一・小川晃司・大井隆夫

13:45-14:00 3E15 (104-02)
湯川水系品木ダム底質中のヒ素の化学的安定性 (1 上智
大学大学院・2 上智大学) ○富部麻利子¹・木川田喜一²・
大井隆夫²

14:00-14:15 3E16 (104-03)
降水中における総水銀およびメチル水銀のモニタリング
手法の検討 (国立水俣病総合研究センター) ○丸本幸
治・松山明人

14:15-14:30 3E17 (104-04)
日本海側地点における微量元素の湿性沈着フラックスと
その季節変化の要因 (1 静岡県立大学・2 電力中央研究
所) ○坂田昌弘¹・朝倉一雄²

14:30-14:45 3E18 (104-05)
西部北太平洋沿岸海域における微量金属元素の total
deposition flux と植物プランクトンの増殖応答 (1 東大院
農学生命科学研究科・2 東大海洋研究所) 武田重信¹・
○大久保綾子¹・小畑元²

14:45-15:00 3E19 (104-06)
表面海水の酸性化に伴うサンゴ石灰化への影響 (琉球
大学) ○大出茂・田中健太郎

15:00-15:15 3E20 (104-07)
海洋表層懸濁態有機物に対する生物体アミノ酸の貢献に
ついて (名古屋大学大学院環境学研究科) ○塚崎あゆ
み・西田民人・田上英一郎

15:15-15:30 3E21 (104-08)
海水中の脂質の化学特性 II - 低分子量溶存態有機物中
の脂質分子の化学特性 - (名古屋大学) ○西田民人・塚
崎あゆみ・鈴木麻彩実・加古正代・田上英一郎

15:30-15:45 3E22 (104-09)
ジュンガル盆地南端の泥火山に関する地球化学的研究
(1 広島大学・2 北海道大学・3 中国科学院) ○中田亮一¹・
高橋嘉夫¹・角皆潤²・鄭国東³・清水洋¹